

第107回 資金管理業務諮問委員会

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

2024年12月16日

委員名簿

| | | |
|-----|--------|-------------------------------------|
| 委員長 | 菅原 周一 | 文教大学大学院国際学研究科 教授 |
| 委員 | 井岡 智子 | 一般財団法人消費科学センター 理事 |
| 委員 | 大沼 あゆみ | 慶應義塾大学経済学部 教授 |
| 委員 | 佐々木 隆文 | 中央大学 総合政策学部 教授 |
| 委員 | 高岡 昌輝 | 京都大学大学院工学研究科 教授 |
| 委員 | 村上 進亮 | 東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻 教授 |
| 委員 | 村上 千里 | 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 理事 |
| 委員 | 山田 奨 | 公認会計士・税理士 |

(五十音順、敬称略)

| | | | |
|------------------------|--------|-------|-----------------|
| 1. 2024年度第2四半期の概況 | 《報告事項》 | | P3 |
| 2. 2024年度第2四半期の決算報告 | 《報告事項》 | | P8 (資料1をご参照) |
| 3. 2024年度第2四半期の運用実績 | 《報告事項》 | | P20 |
| 4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 | 《諮問事項》 | | P28 |
| 5. ユーザー理解活動の取組状況 | 《報告事項》 | | 別冊 |

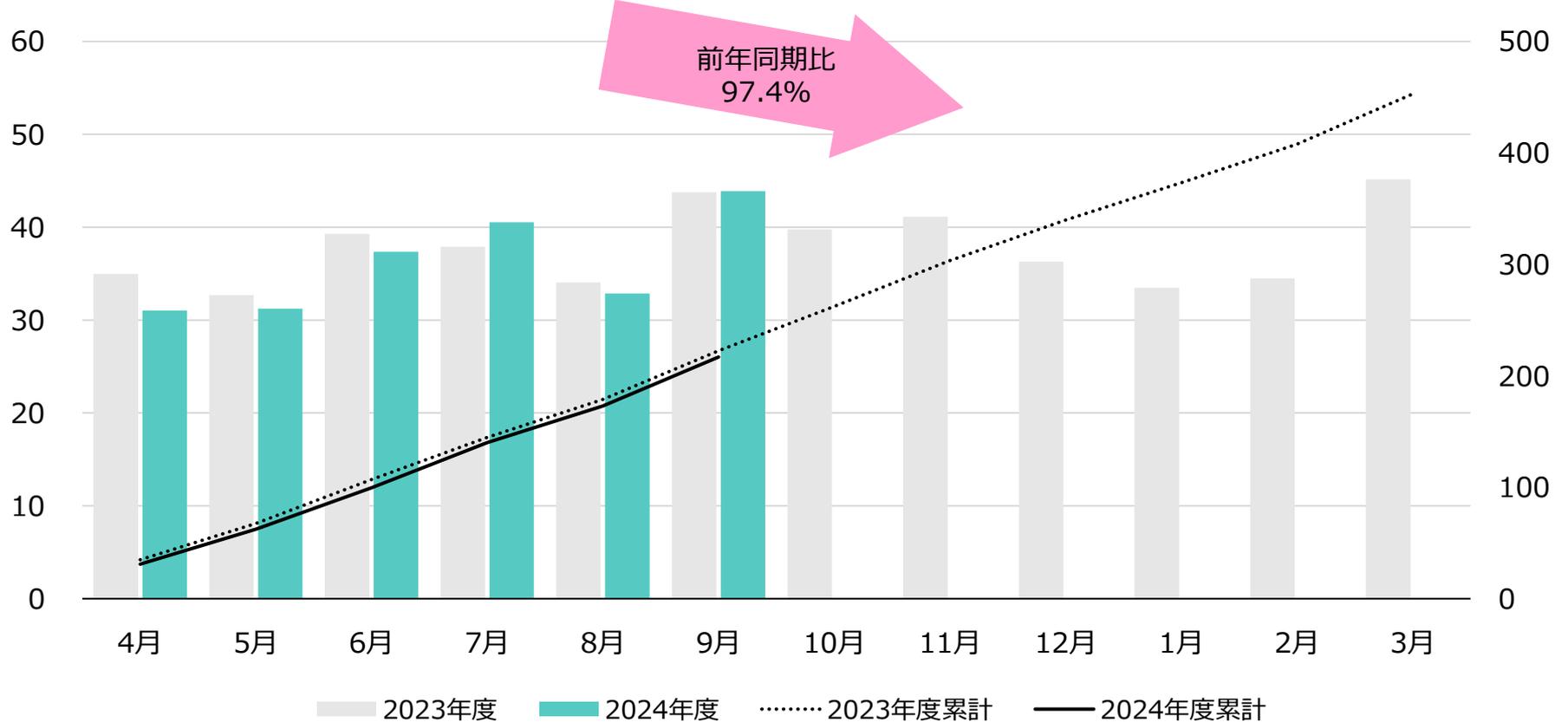
1. 2024年度第2四半期の概況（1）預託・引取・輸出返還に係る台数の動向

2024年度第2Qまでの新車販売台数は217万台、前年同期比で97.4%。一部自動車メーカーの出荷停止などが影響し前年同期を下回っているが、第2Q（7月～9月）においては、前年同期比101.3%であった。

① 新車販売台数

(単位：万台【単月】)

(単位：万台【累計】)



* 新車販売台数は一般社団法人日本自動車販売協会連合会および一般社団法人全国軽自動車協会連合会の公表データの集計値。

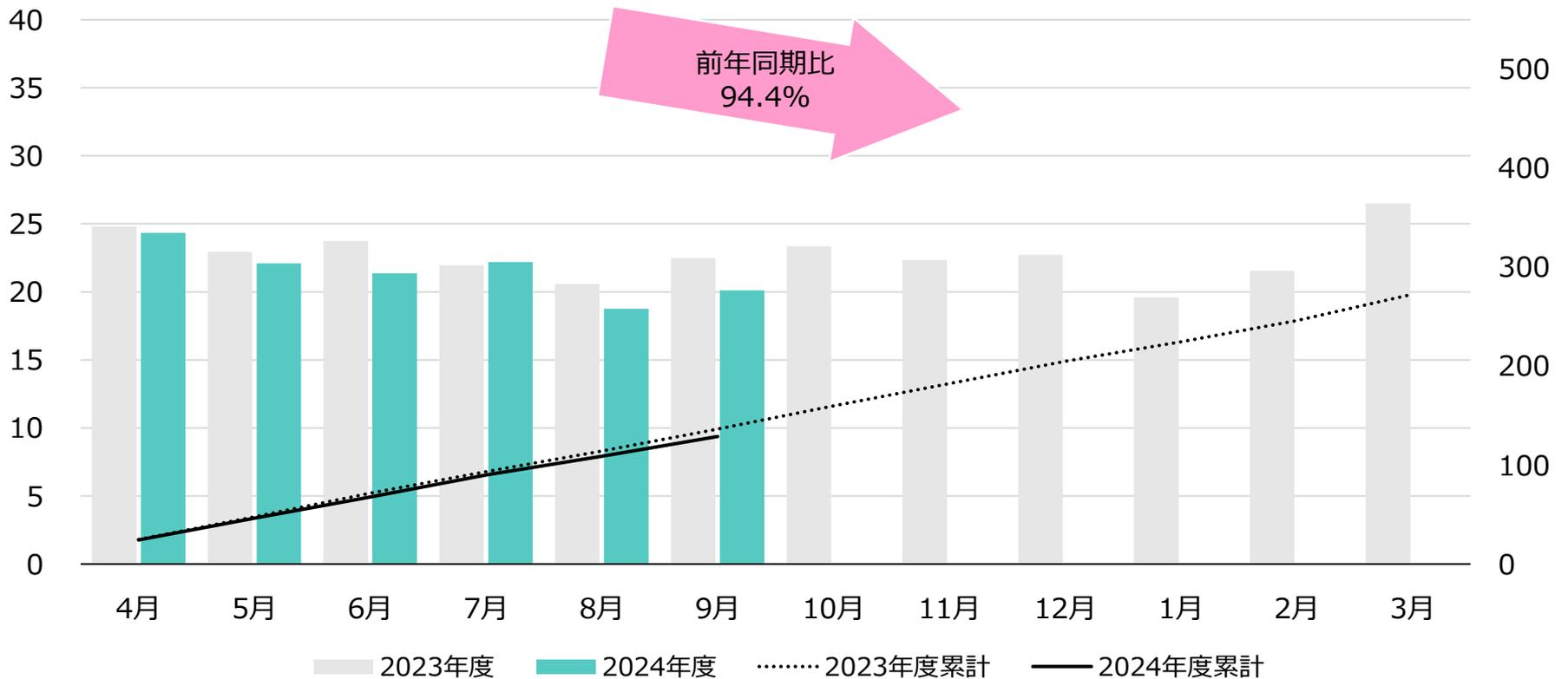
1. 2024年度第2四半期の概況（1）預託・引取・輸出返還に係る台数の動向

2024年度第2Qまでの使用済自動車引取台数は前年同期比で94.4%。上半期の発生台数としては、法施行以来最も少ない台数となっている。

② 使用済自動車引取台数

(単位：万台【単月】)

(単位：万台【累計】)

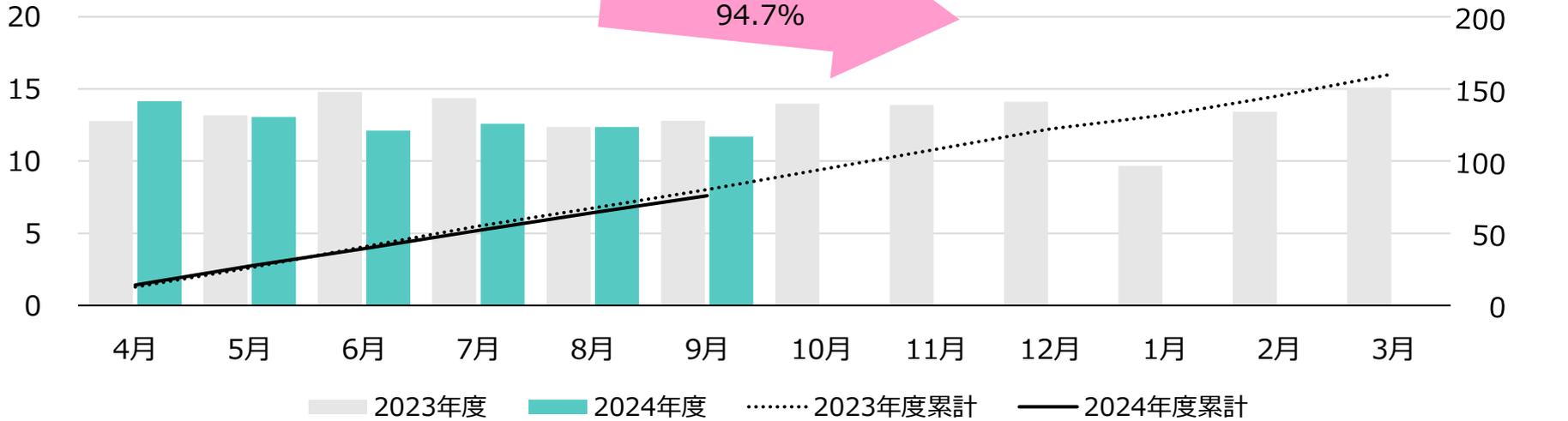


1. 2024年度第2四半期の概況（1）預託・引取・輸出返還に係る台数の動向

2024年度第2Qまでの中古車輸出台数は76万台、前年同期比94.7%。仕向地別の輸出台数が最も多かったロシアへの輸出は、2023年8月からの輸出規制の影響により前年同期比88.7%と減少した。

③ 中古車輸出台数

(単位：万台【単月】)



| 順位 | 2024年度第1Q | | | 2024年度第2Q | | | 2024年度上半期合計 | | |
|----|-----------|---------|----------|-----------|---------|----------|-------------|---------|----------|
| | 地域 | 台数 | 前年同期比 | 地域 | 台数 | 前年同期比 | 地域 | 台数 | 前年同期比 |
| 1 | アジア | 101,754 | ↑ 134.0% | アフリカ | 90,317 | ↓ 94.8% | アジア | 187,897 | ↑ 121.1% |
| 2 | アフリカ | 82,892 | ↓ 90.3% | アジア | 86,143 | ↑ 108.7% | アフリカ | 173,209 | ↓ 92.6% |
| 3 | 中東欧・ロシア | 60,348 | ↓ 77.5% | 中東欧・ロシア | 60,529 | ↑ 100.5% | 中東欧・ロシア | 120,877 | ↓ 87.6% |
| | 輸出総台数 | 393,432 | ↓ 96.5% | 輸出総台数 | 366,649 | ↓ 92.8% | 輸出総台数 | 760,081 | ↓ 94.7% |

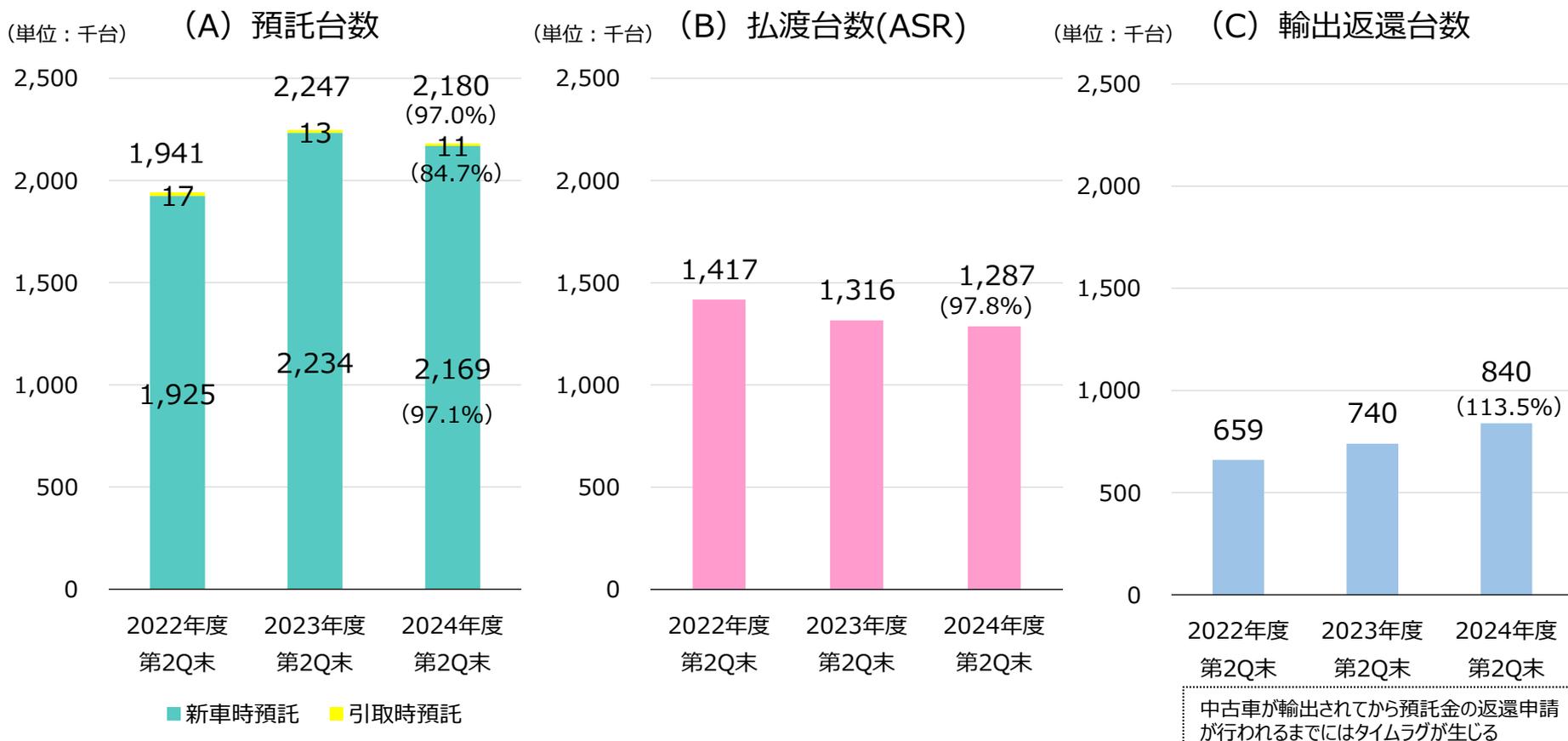
| 2023年度上半期合計 | |
|-------------|---------|
| 地域 | 台数 |
| アフリカ | 187,080 |
| アジア | 155,147 |
| 中東欧・ロシア | 137,945 |
| 輸出総台数 | 802,419 |

* 出典：財務省貿易統計（20万円以下の少額貨物は含まない。）

1. 2024年度第2四半期の概況（1）預託・引取・輸出返還に係る台数の動向

- (A) 新車販売台数が前年同期比で減少したことから、預託台数は前年度を下回った。
- (B) 使用済自動車引取台数が前年同期比で減少したことから、払渡台数（ASR）は前年度を下回った。
- (C) 財務省貿易統計では輸出台数は減少したが、輸出返還台数は前年度を上回った。

③ 預託・払渡・輸出返還に係る台数の実績 * グラフのカッコ内は前年度比



1. 2024年度第2四半期の概況 (2) 金利の動向

7月の国内長期金利は、円高進行に伴う追加利上げ観測の後退から低下する場面もあったものの、日銀金融政策決定会合において、政策金利を0.25%程度に引き上げることや国債買い入れに関する具体的な減額計画が決定されたことから、若干の上昇。8月の初旬には、米国で景気減速への懸念が一段と強まり、FRB（連邦準備制度理事会）が利下げのペースを早めるのではないかとという見方から、米国の長期金利が低下し国内長期金利も低下。9月の国内長期金利においても、米国における大幅利下げ観測や、日銀総裁が追加利上げについて慎重な姿勢を示したことなどから低下し、月末は0.85%で終了した。

(単位：%)

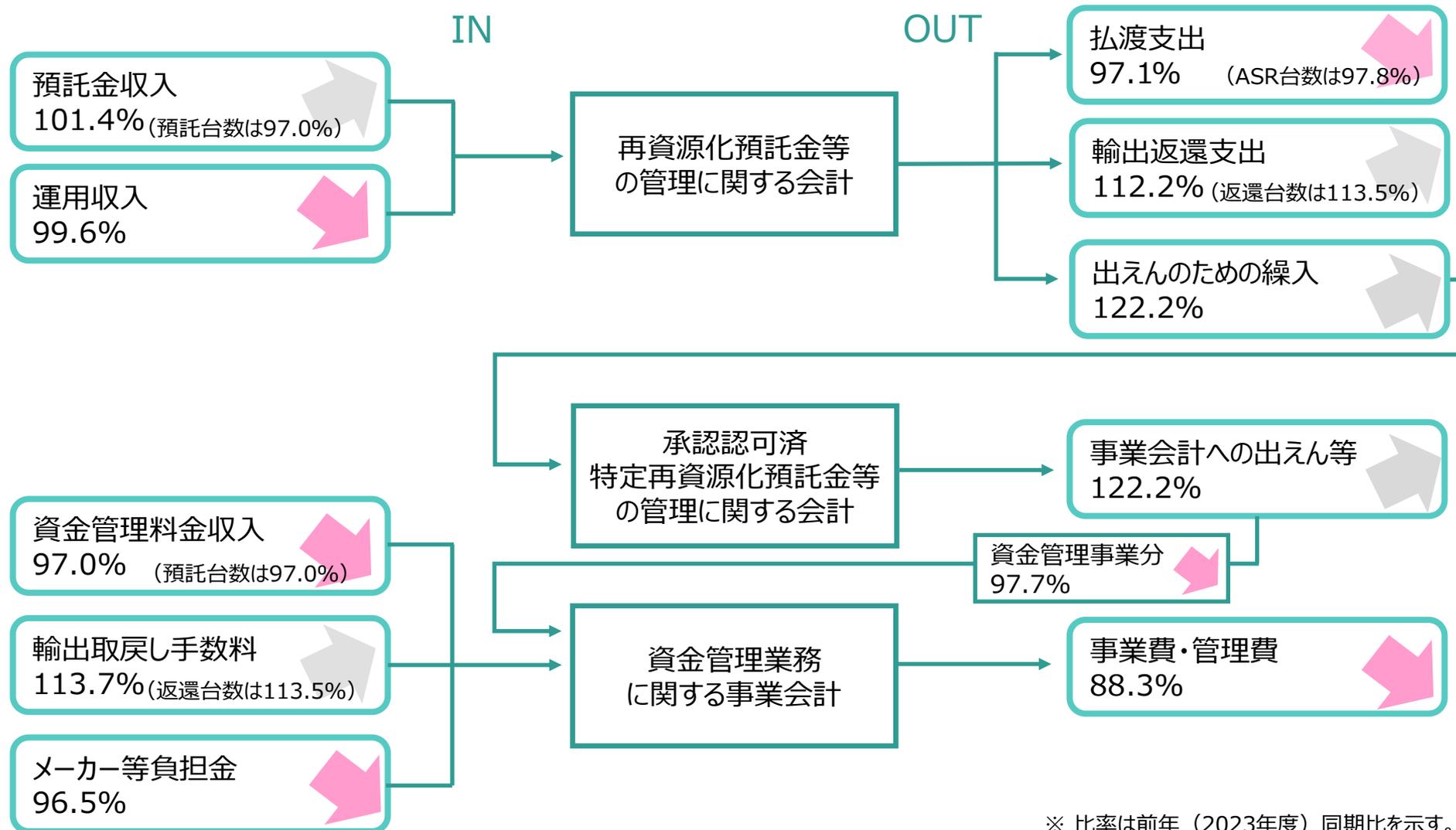
10年国債の利回り推移



* 出典 : Bloomberg

2. 2024年度第2四半期の決算（1）総括 各会計における収入・支出（フロー）

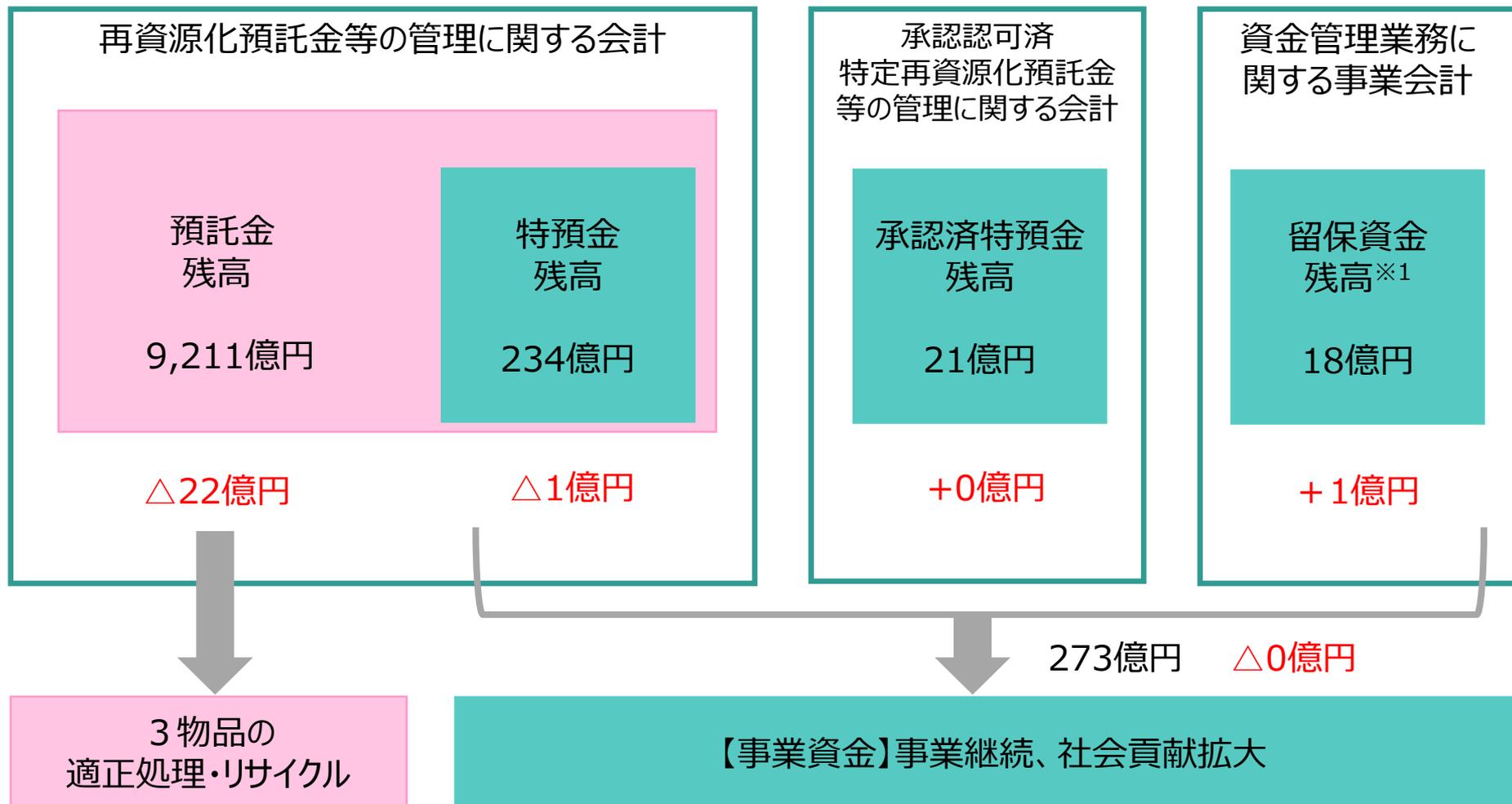
2024年度第2Q末は、払渡台数が減少（前年同期比 97.8%）したこと等に伴い、払渡支出も減少。また、自動車リサイクルシステムの大改造により、事業会計への出えん等が増加（前年度比122.2%）した。



※ 比率は前年（2023年度）同期比を示す。

2. 2024年度第2四半期の決算（1）総括 各会計における期末残高（ストック）

2024年度第2Q末の資金管理センター3会計のストックの概況は下図のとおり。預託金の残高は、前年度末に比して減少、特預金の残高もシステム大改造に関する出えん等が実施されたことに伴い減少。

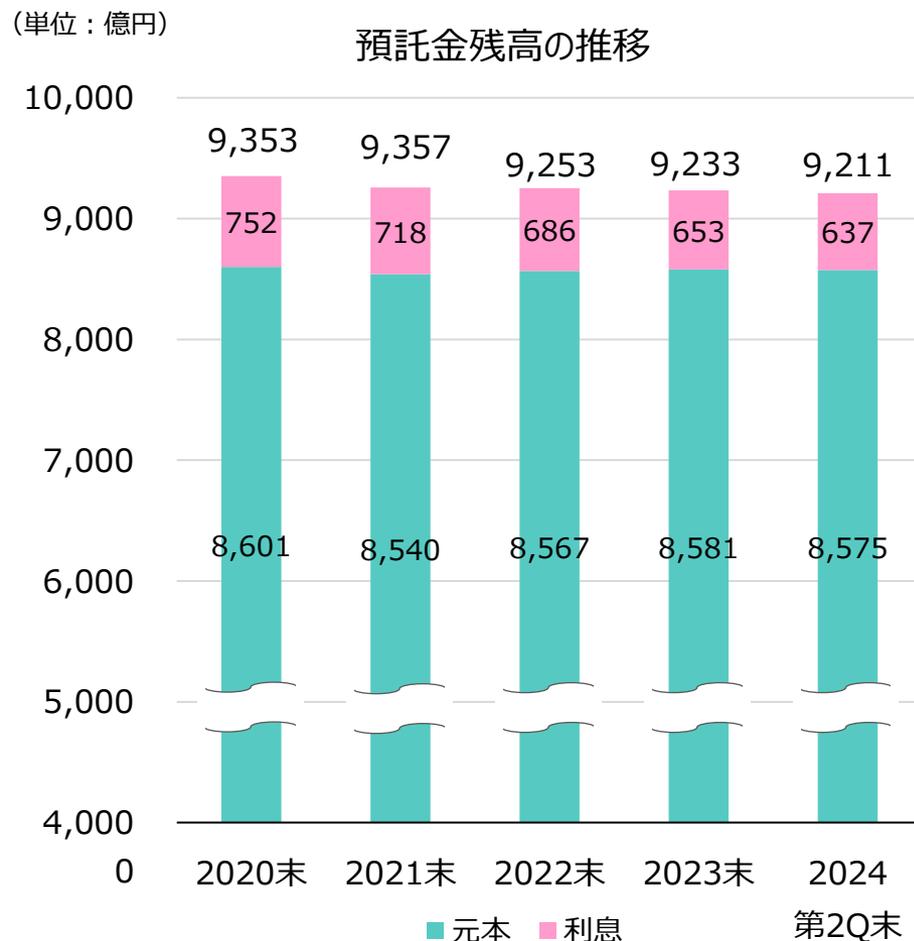
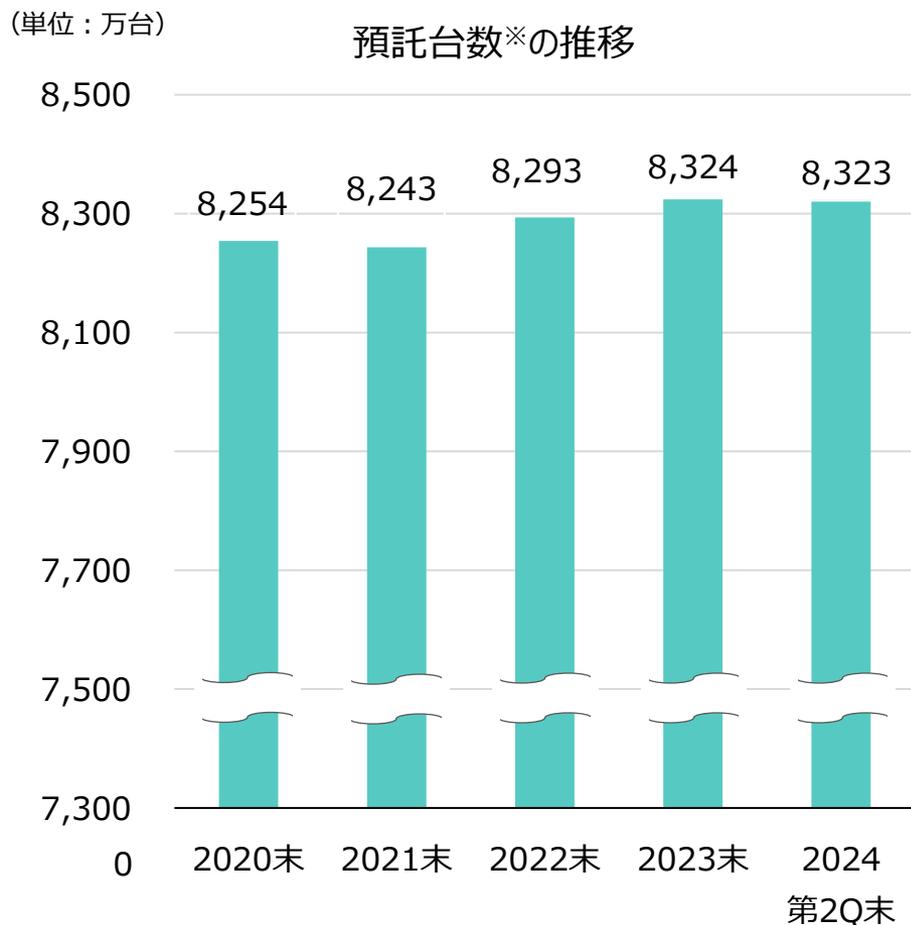


※1一般正味財産のうち特定資産への充当額 <赤字の金額は対2023年度末の増減を示す>

2. 2024年度第2四半期の決算（2）再資源化預託金等の管理に関する会計

2024年度第2Q末時点での預託台数は8,323万台。預託金の残高は9,211億円、前年度末に比して22億円の減少。

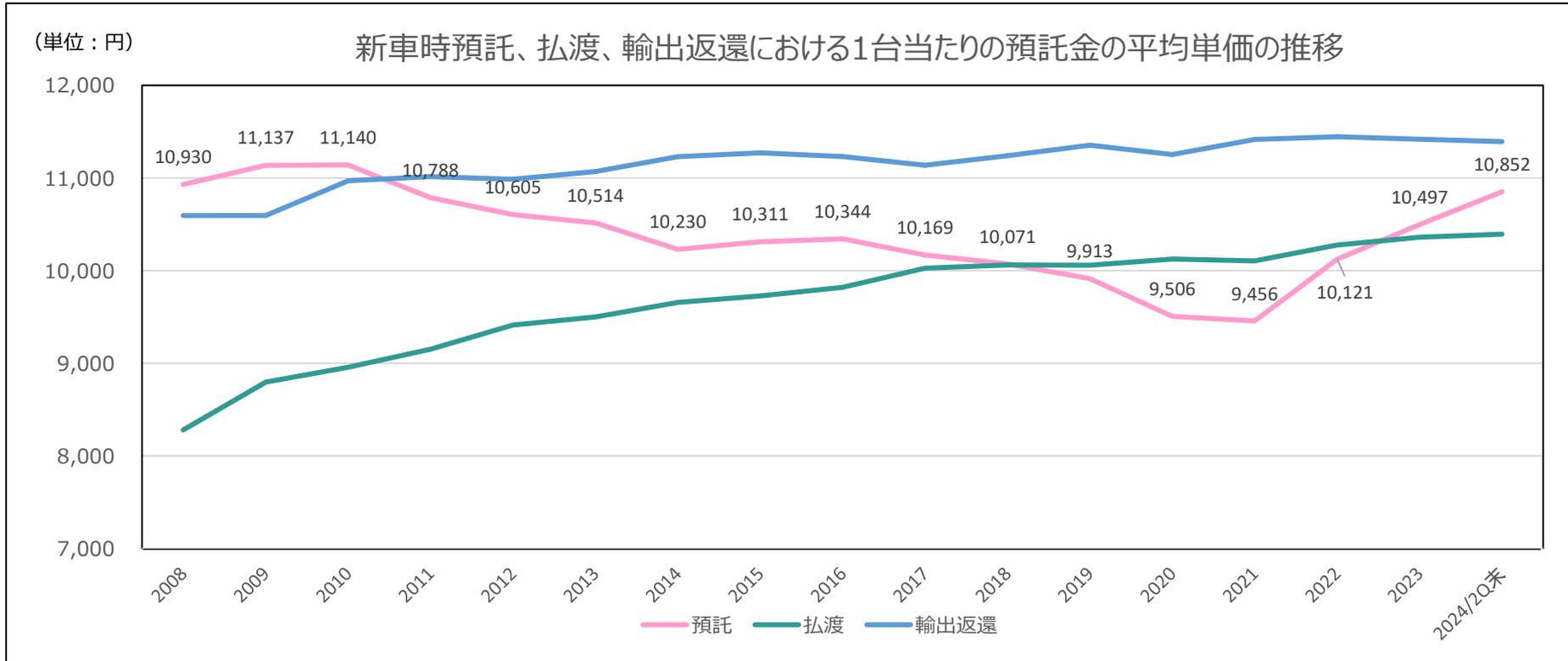
①ストックの状況



※預託済ASR件数のうち、集計時点で払渡・輸出返還・特預金出えん等されていない残存件数

2. 2024年度第2四半期の決算（2）再資源化預託金等の管理に関する会計

新車時預託における1台当たりの預託金の平均単価（第2Q末時点）は、前年度の10,497円から10,852円に上昇（355円のアップ、前年比103%）。

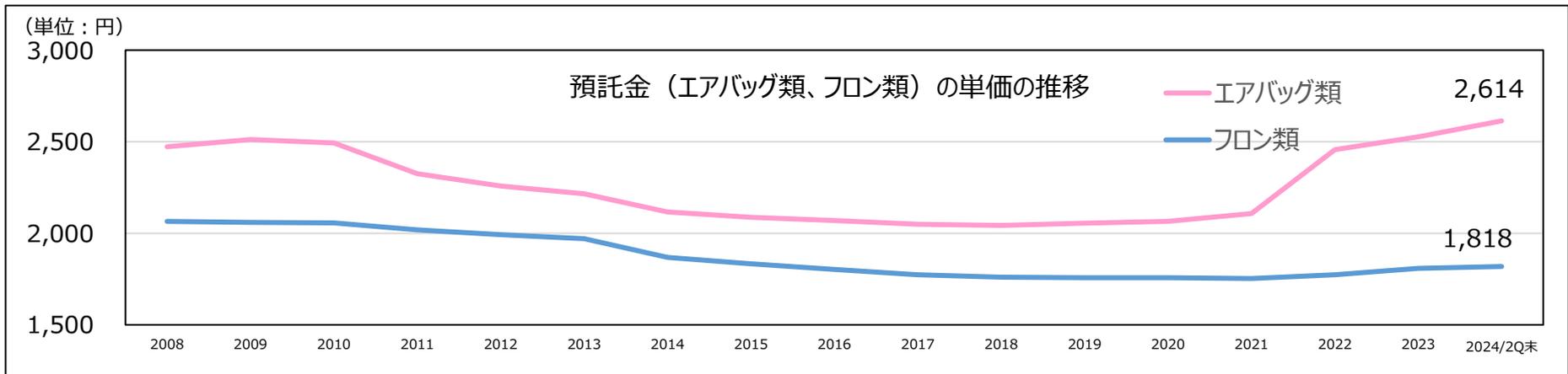
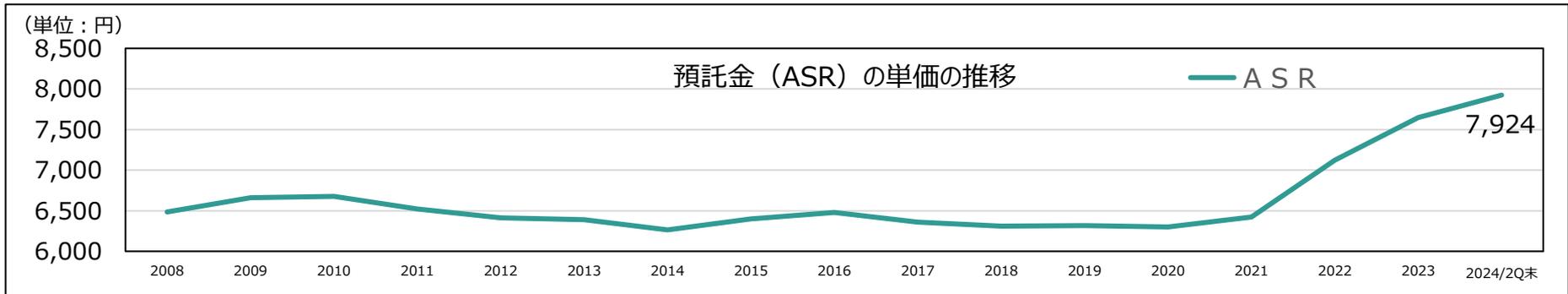


| | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 2Q末 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|
| 新車時預託 | 10,930 | 11,137 | 11,140 | 10,788 | 10,605 | 10,514 | 10,230 | 10,311 | 10,344 | 10,169 | 10,071 | 9,913 | 9,506 | 9,456 | 10,121 | 10,497 | 10,852 |
| 払渡 | 8,280 | 8,797 | 8,956 | 9,151 | 9,411 | 9,499 | 9,656 | 9,726 | 9,819 | 10,026 | 10,061 | 10,057 | 10,126 | 10,103 | 10,276 | 10,361 | 10,393 |
| 輸出返還 | 10,594 | 10,595 | 10,969 | 11,014 | 10,986 | 11,069 | 11,230 | 11,271 | 11,231 | 11,137 | 11,240 | 11,354 | 11,253 | 11,416 | 11,445 | 11,417 | 11,391 |

※情報管理料預託金を除く指定3品目に係る預託金のみを対象としている

2. 2024年度第2四半期の決算（2）再資源化預託金等の管理に関する会計

指定3品目ごとの預託金の平均単価の推移は下のグラフのとおり。2024年度第2Q末においては、前年度に比して、ASRの単価（277円のアップ）とエアバッグ類の単価（88円のアップ）が上昇している。

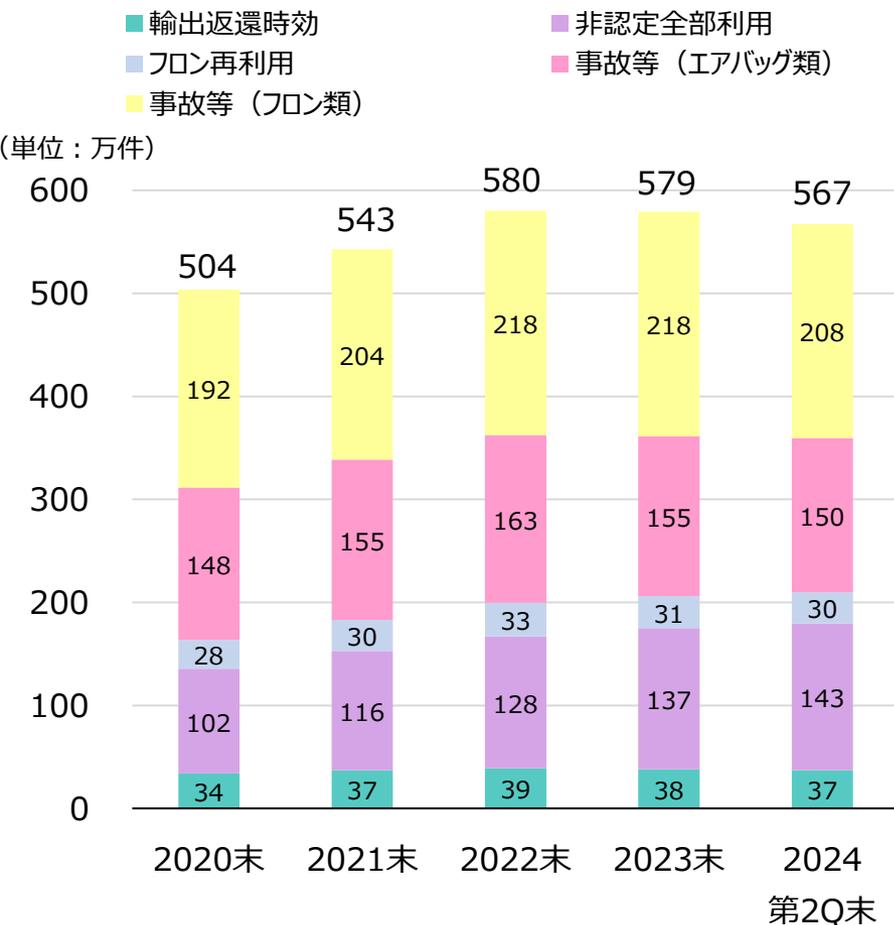


| | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 2Q末 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| A S R | 6,484 | 6,659 | 6,678 | 6,520 | 6,414 | 6,391 | 6,264 | 6,398 | 6,480 | 6,359 | 6,312 | 6,317 | 6,302 | 6,424 | 7,124 | 7,647 | 7,924 |
| エアバッグ類 | 2,472 | 2,512 | 2,493 | 2,325 | 2,258 | 2,216 | 2,116 | 2,088 | 2,070 | 2,050 | 2,043 | 2,055 | 2,065 | 2,108 | 2,456 | 2,526 | 2,614 |
| フロン類 | 2,065 | 2,059 | 2,056 | 2,018 | 1,993 | 1,970 | 1,868 | 1,833 | 1,803 | 1,774 | 1,760 | 1,758 | 1,758 | 1,753 | 1,773 | 1,809 | 1,818 |

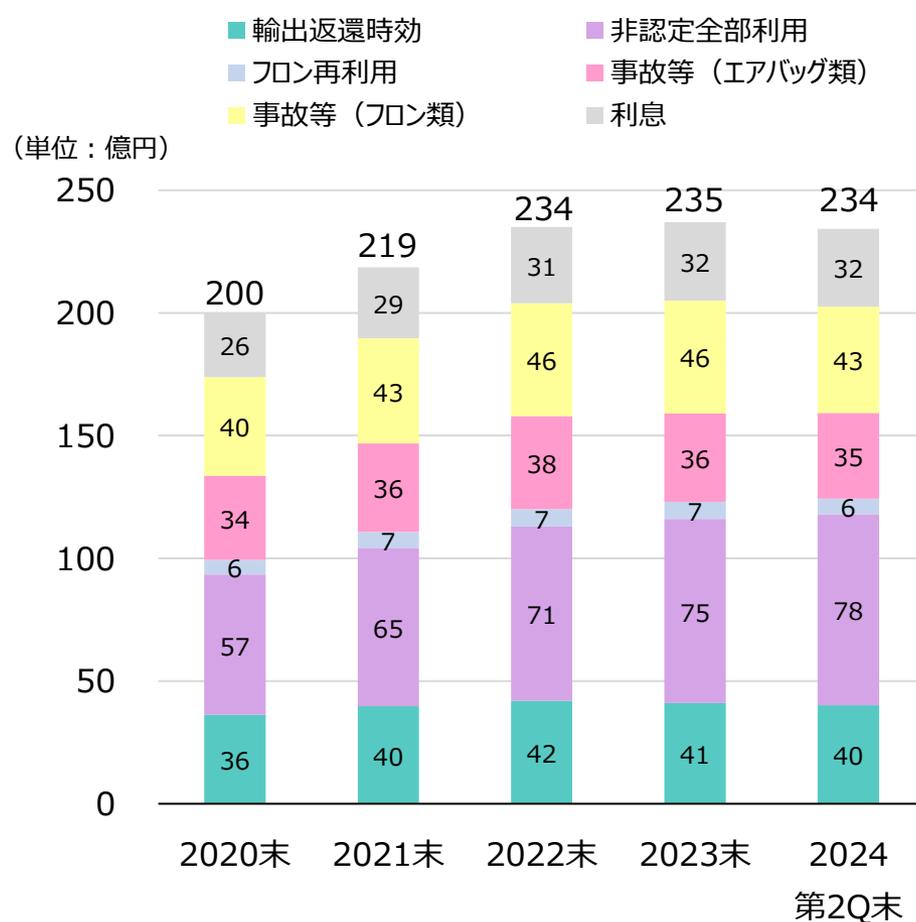
2. 2024年度第2四半期の決算（2）再資源化預託金等の管理に関する会計

2024年度第2Q末時点において預託金残高に含まれる特預金の残高は234億円。

特預金件数※の推移



特預金残高の推移



* 特預金残高を構成する件数。出えん等の件数は差し引かれているため、累計の件数ではない。

2. 2024年度第2四半期の決算（2）再資源化預託金等の管理に関する会計

2024年度第2Qまでに発生した特預金の額は11.7億円、前年同期比で0.9億円の増加となった。

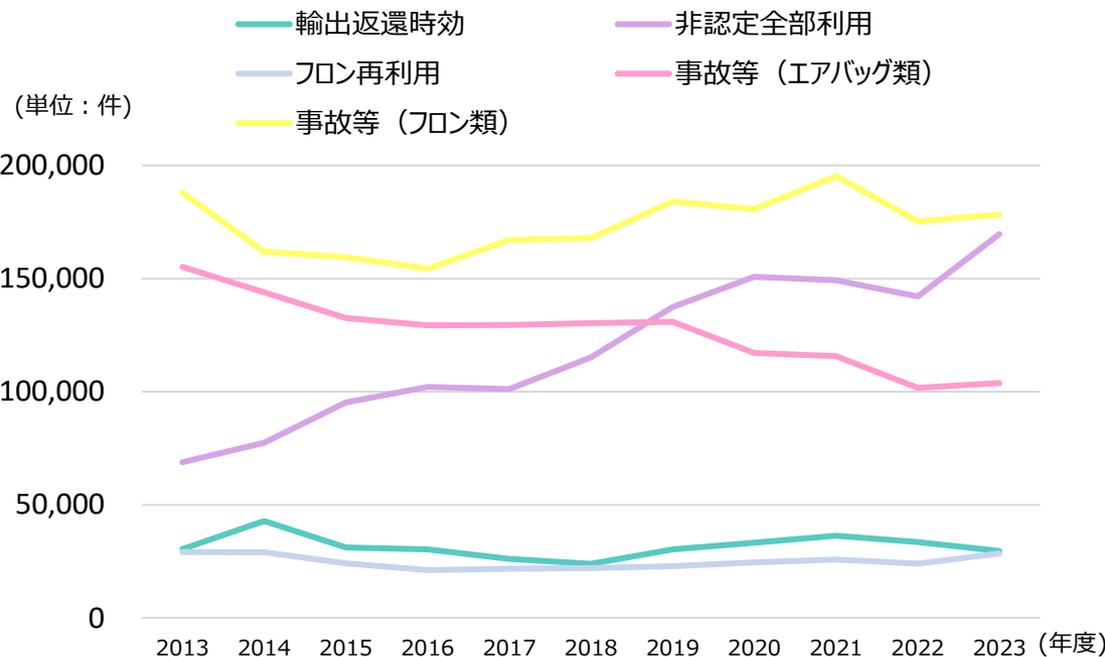
特預金の発生事由別の金額と件数
(前年同期比)

上段：金額（単位：百万円）

下段：件数

| | 2024年度 第2Q末 | 2023年度 第2Q末 | 増減率 |
|---------------------|----------------|----------------|------|
| 輸出返還時効 | 154 | 155 | 99% |
| | 14,038 | 14,474 | 97% |
| 非認定全部利用 | 513 | 435 | 118% |
| | 96,054 | 82,535 | 116% |
| フロン再利用 | 57 | 59 | 96% |
| | 27,168 | 28,430 | 96% |
| 事故等 (エアバッグ類) | 122 | 119 | 103% |
| | 52,186 | 50,698 | 103% |
| 事故等 (フロン類) | 181 | 180 | 101% |
| | 87,905 | 87,496 | 101% |
| 利息【金額】 | 138 | 131 | 106% |
| 合計【金額】 | 1,165 | 1,079 | 108% |
| 対前年度で86百万円増加 | | | |

特預金発生件数の推移



【特預金の発生事由】

- 輸出返還時効 … 預託済み自動車が中古車として輸出された後、2年間返還請求がなかった場合の再資源化預託金等
- 非認定全部利用 … 解体自動車が非認定全部利用者へ引き渡された場合の再資源化等預託金
- フロン再利用 … フロン類が再利用された場合の再資源化等預託金
- 事故等 … 事故等で使用済みとなり処理不要となったエアバッグ類・フロン類の再資源化等預託金

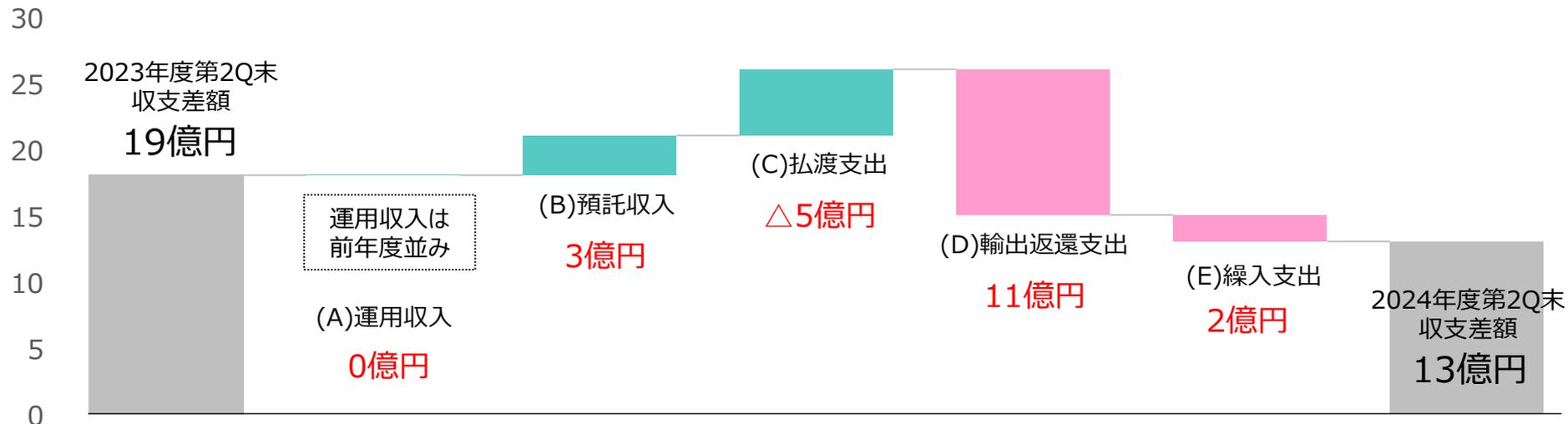
2. 2024年度第2四半期の決算（2）再資源化預託金等の管理に関する会計

預託収入の増加や払渡支出の減少、輸出返還支出の増加などにより収支差額は前年度に対して減少（19億円 → 13億円）。

②フローの状況（事業活動収支）

■ 増加要因 ■ 減少要因

(単位：億円)



(B)の内訳

| | 当年度 | 前年度 | 比率 |
|--------|-------|-------|------|
| フロン類 | 7億円 | 8億円 | 91% |
| エアバッグ類 | 57億円 | 56億円 | 101% |
| ASR | 172億円 | 169億円 | 102% |
| 情報管理 | 3億円 | 3億円 | 97% |
| 合計 | 239億円 | 236億円 | 101% |

3億円の増加

(C)の内訳

| 内訳 | 当年度 | 前年度 | 比率 |
|----|-------|-------|-----|
| 元本 | 136億円 | 140億円 | 97% |
| 利息 | 20億円 | 21億円 | 96% |
| 合計 | 156億円 | 161億円 | 97% |

5億円の減少

(D)の内訳

| 内訳 | 当年度 | 前年度 | 比率 |
|----|-------|------|------|
| 元本 | 97億円 | 86億円 | 113% |
| 利息 | 8億円 | 8億円 | 104% |
| 合計 | 105億円 | 94億円 | 112% |

11億円の増加

2. 2024年度第2四半期の決算 (3) 承認・認可済特定再資源化預託金等の管理に関する会計

第2Q（7月～9月）における特預金の出えん等はなし。当年度においては27.9億円の出えん等を行う予定。

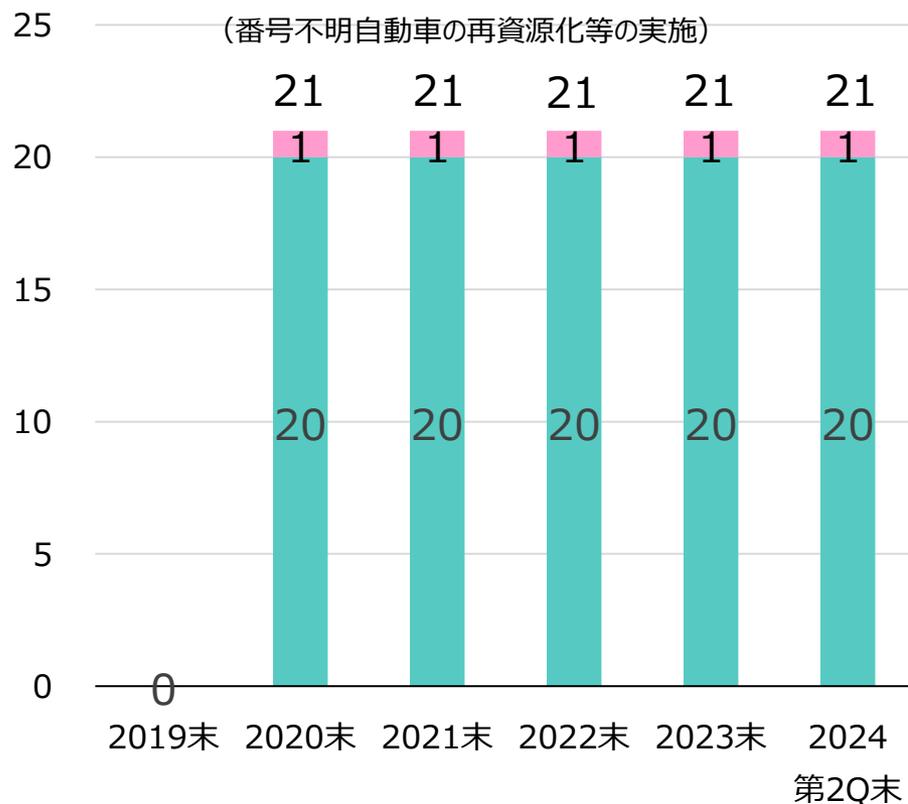
【ストック】

承認済特預金残高の推移

■ ①JARCの事業継続に対応する資金

■ ②大規模災害に対応する資金
(番号不明自動車の再資源化等の実施)

(単位：億円)



【フロー】

2024年度において

「再資源化預託金の管理に関する会計」から繰り入れる額

| | 用途 | 金額 (百万円) |
|-------------|---------------------------|-------------|
| 第1Q (実績) | ・離島対策等支援事業 | 168 |
| | ・大規模災害への事前対応 | 5 |
| | ・自動車リサイクル情報システムの大規模改造（開発） | 1,178 |
| 第2Q (実績) | — | — |
| 第3Q (見込) | — | — |
| 第4Q (見込) | ・大規模災害への事前対応 | 10 |
| | ・理解活動の取組 | 142 |
| | ・自動車リサイクル情報システムの大規模改造（開発） | 1,286 |
| | | 2,789 |
| 合計 | 内 当会計にストック | — |
| | 内 3指定法人の事業会計に出えん等 | 2,789 |

2. 2024年度第2四半期の決算 (4) 資金管理業務に関する事業会計

資金管理料金収支は、預託台数が想定を下回っていることに伴い、収入及び支出（変動費）が予算を下回っている。

フローの状況（当期収支差額）

① 資金管理料金収支

2024年度第2Q 収支計算書【資金管理料金収支】

(単位：百万円)

| | | 予算 | 決算 | 差異 | |
|--------|------------------|------------------|-------|-----|----|
| 収入 | 資金管理料金収入 | 650 | 634 | 16 | |
| | 業務受託収入 | 22 | 22 | - | |
| | 情報システム刷新準備資金取崩収入 | 495 | 495 | - | |
| | その他 | 51 | 51 | △0 | |
| | 合計 | 1,217 | 1,201 | 16 | |
| 支出 | 変動費 | リサイクル料金収受に係る委託費 | 197 | 192 | 5 |
| | | 登録情報取得費 | 121 | 119 | 2 |
| | 固定費 | システム関連費 | 176 | 176 | - |
| | | コンタクトセンター（CC）委託費 | 10 | 11 | △0 |
| | | 調査・研究事業費 | 0 | 1 | △1 |
| | | 監査費用 | 2 | 2 | 0 |
| | | その他 | 26 | 30 | △4 |
| | システム大改造 | 520 | 520 | - | |
| | その他、立替分など | 50 | 50 | - | |
| | 合計 | 1,103 | 1,101 | 2 | |
| 当期収支差額 | 114 | 100 | 14 | | |

預託台数が想定を下回ることにより予算と比べて減収となった。

預託台数が想定を下回ったことにより自動車販売事業者等に支払うリサイクル料金収受に係る委託費等の支出（変動費）も予算想定を下回った。

↓
第2Qにおける
留保資金の増加額

2. 2024年度第2四半期の決算 (4) 資金管理業務に関する事業会計

輸出取戻し手数料収支は、返還申請台数（申請件数）が想定を上回っていることに伴い収入及び支出（変動費）が予算を上回っている。

② 輸出取戻し手数料収支

2024年度第2Q 収支計算書【輸出取戻し手数料収支】

(単位：百万円)

| | | 予算 | 決算 | 差異 | |
|--------|------------|------------------|-----|-----|----|
| 収入 | 輸出取戻し手数料収入 | 181 | 195 | △15 | |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | |
| | 合計 | 181 | 196 | △15 | |
| 支出 | 変動費 | コンタクトセンター（CC）委託費 | 186 | 189 | △3 |
| | | 登録情報取得費 | 9 | 10 | △1 |
| | 固定費 | その他 | 4 | 4 | △0 |
| | | 合計 | 199 | 203 | △4 |
| 当期収支差額 | | △19 | △8 | △11 | |

返還台数が想定を上回ることにより増収となった。

返還申請件数が想定を上回ることにより輸出返還事務に係る委託費等の支出（変動費）も予算想定を上回った。

↓
第2Qにおける
留保資金の減少額

2. 2024年度第2四半期の決算 (4) 資金管理業務に関する事業会計

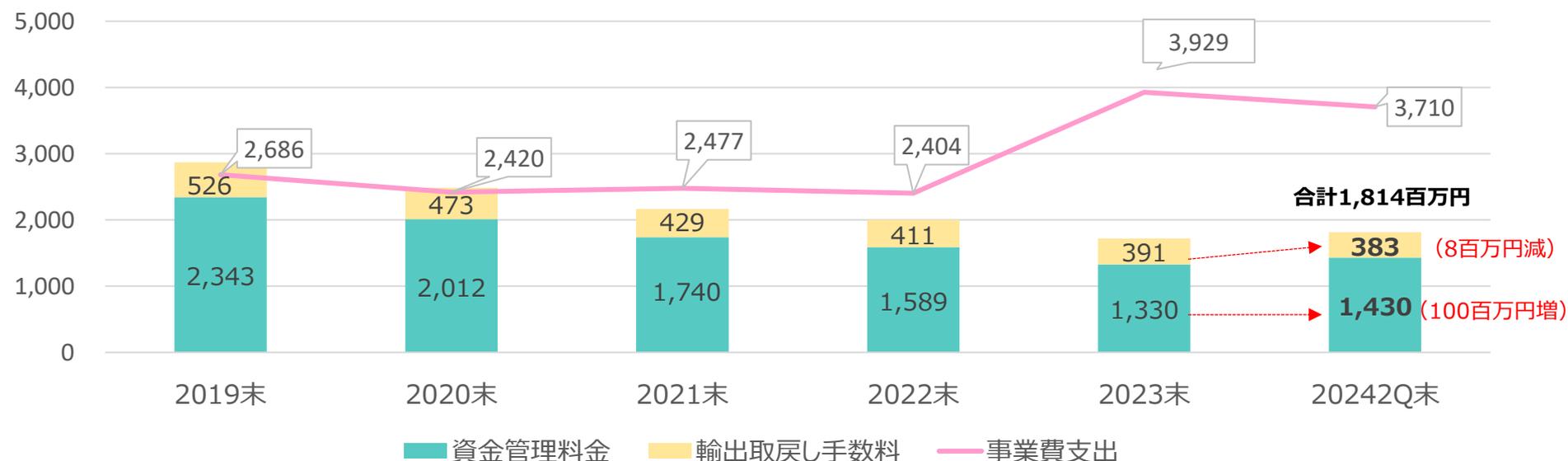
2024年度における当期収支差額を反映した資金管理業務に関する事業会計の留保資金の額は18億円。1年間の事業費支出の額※（37億円）を下回る適正な水準の額となっている。

ストックの状況（留保資金）

※公益財務基準上の遊休財産の保有上限額

事業費支出の額と留保資金の額の推移

(単位：百万円)



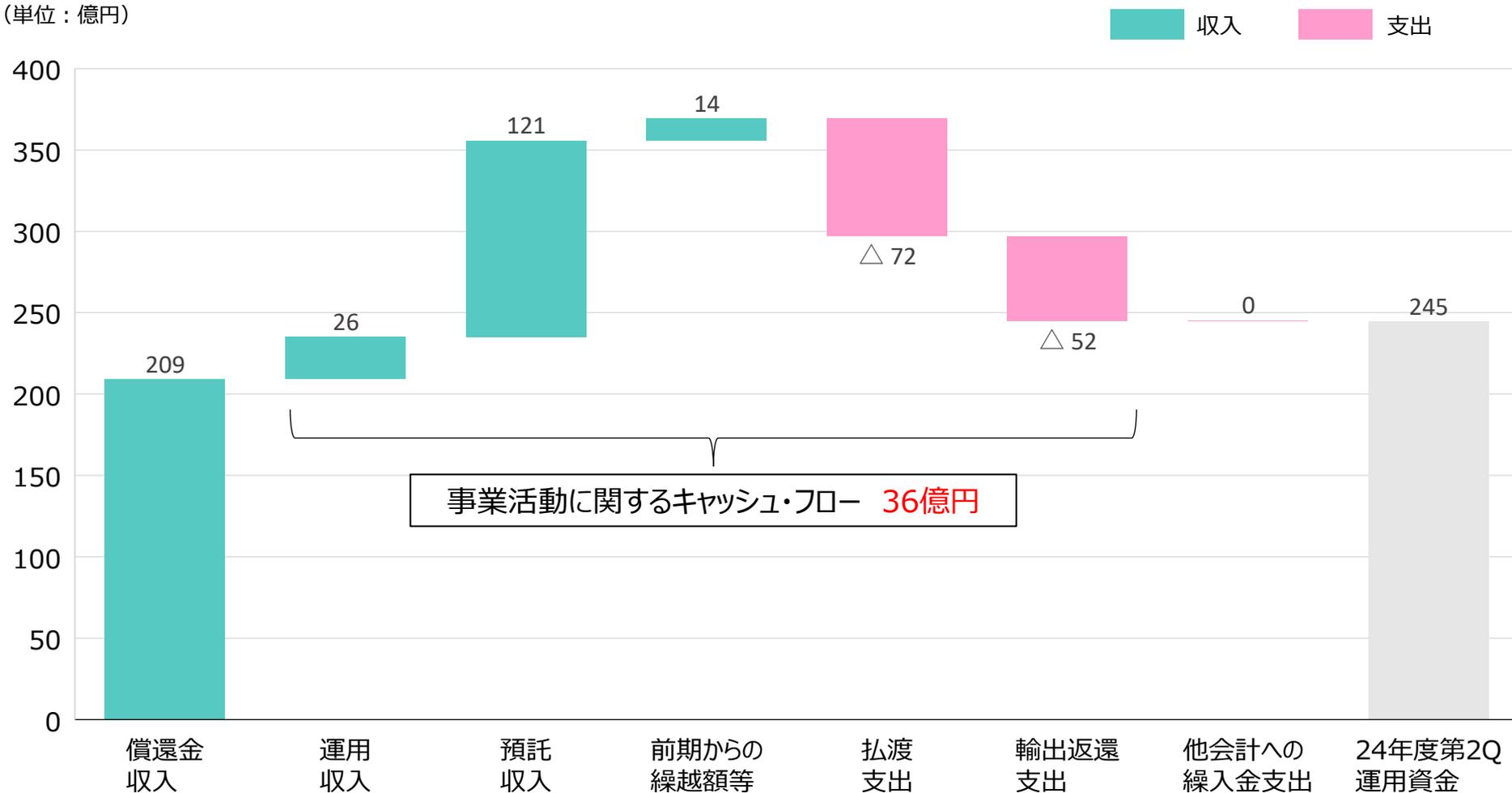
(単位：百万円)

| 年度 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 事業費支出 | 2,686 | 2,420 | 2,477 | 2,404 | 3,929 | 3,710 |
| 留保資金 合計 | 2,869 | 2,485 | 2,168 | 2,001 | 1,721 | 1,814 |
| 資金管理料金（債券運用分含む） | 2,343 | 2,012 | 1,740 | 1,589 | 1,330 | 1,430 |
| 輸出取戻し手数料 | 526 | 473 | 429 | 411 | 391 | 383 |

3. 2024年度第2四半期の運用実績 (1) 運用資金

2024年度第2Qの運用資金は245億円（事業活動に関するキャッシュ・フローは36億円のプラス）。

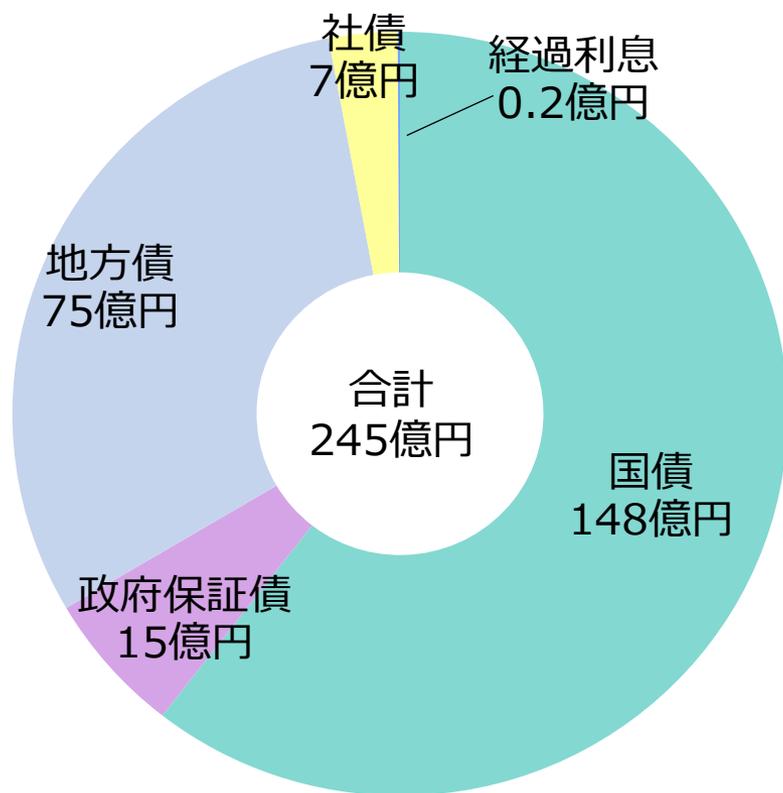
(単位：億円)



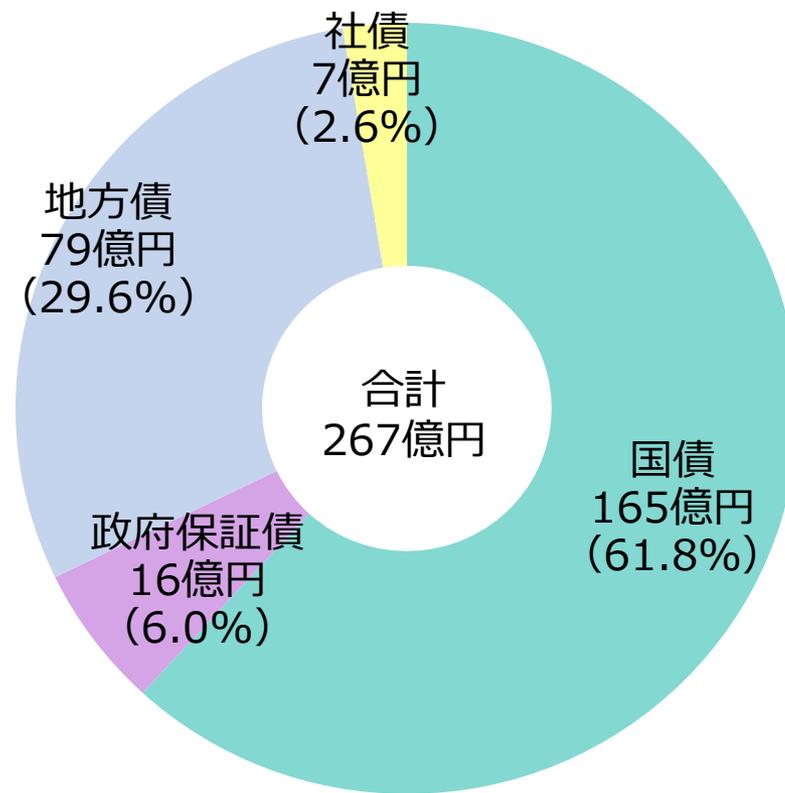
3. 2024年度第2四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

2024年度第2Q（7月～9月）は、年限5年、10年、14年の債券を新規に取得（簿価ベース245億円、額面ベース267億円）。

簿価ベース



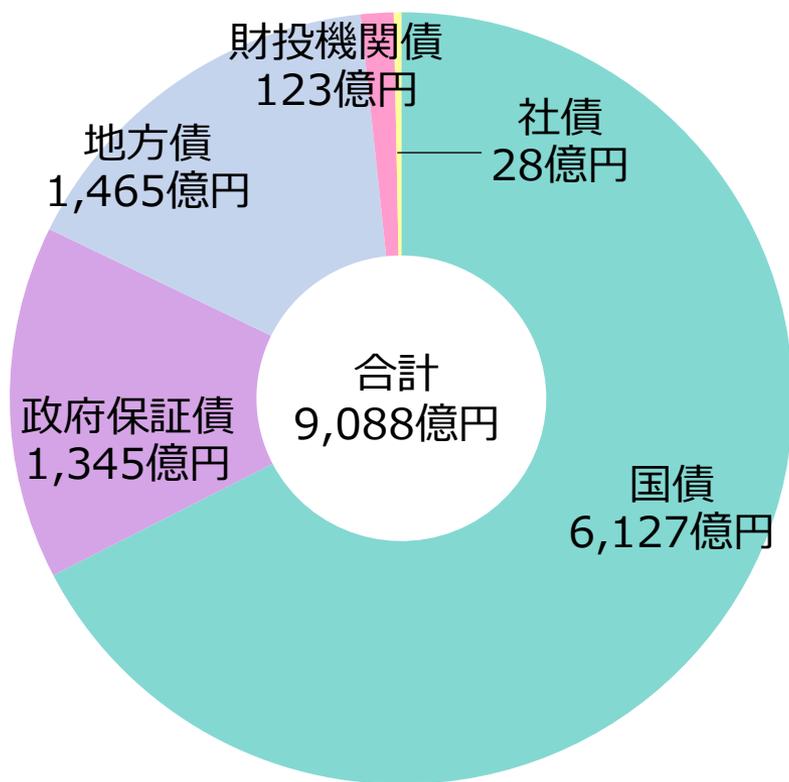
額面ベース



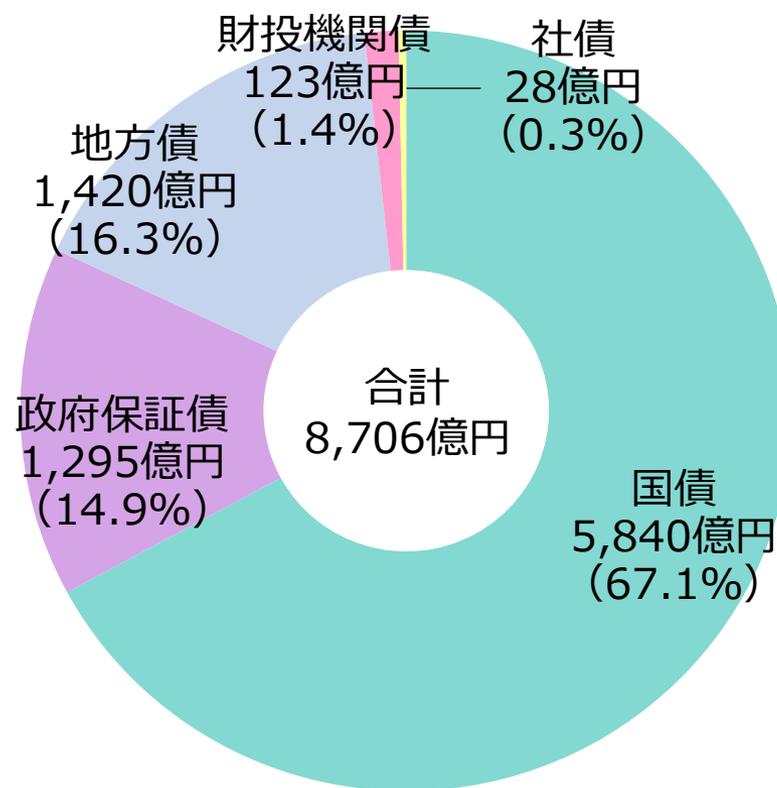
3. 2024年度第2四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

2024年度第2Q末における保有債券は額面残高で8,706億円となった。

簿価残高

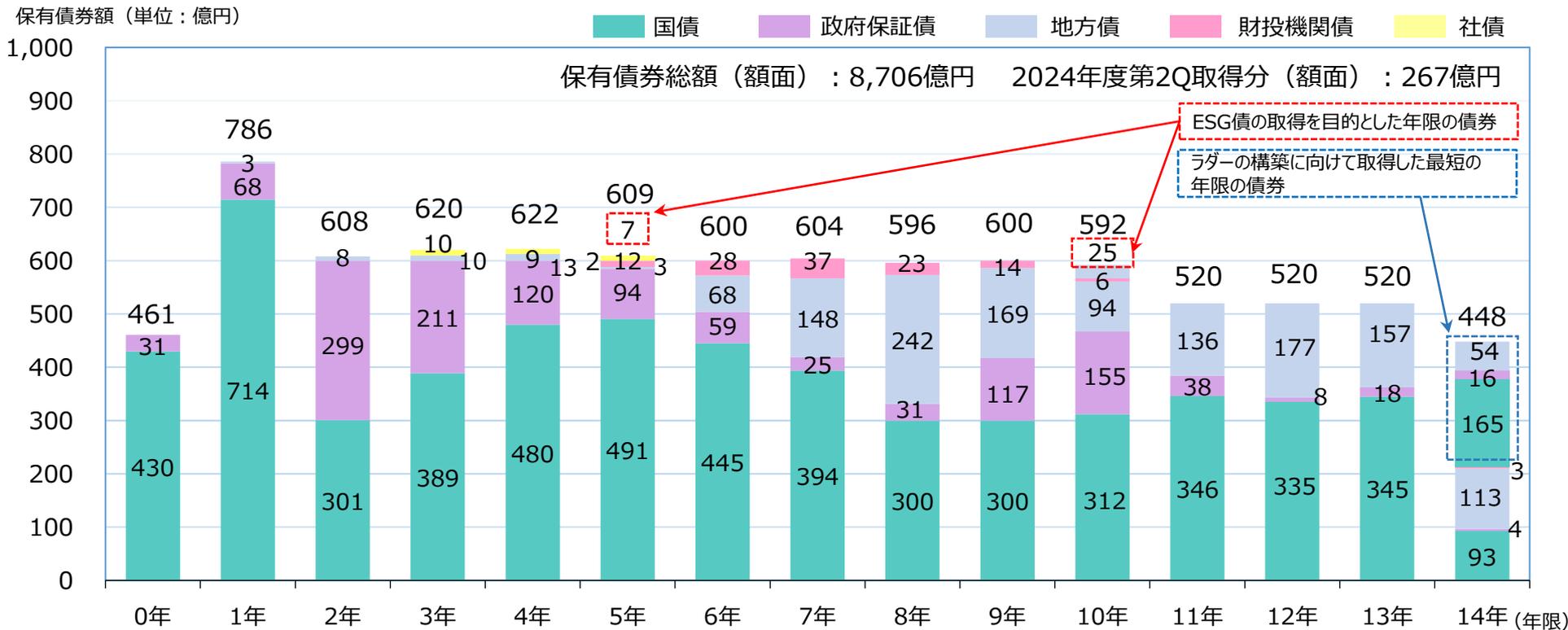


額面残高



3. 2024年度第2四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

額面残高8,706億円分の保有債券のラダー型ポートフォリオは、下図のとおり。新規に取得した債券を含め、評価基準に合致。



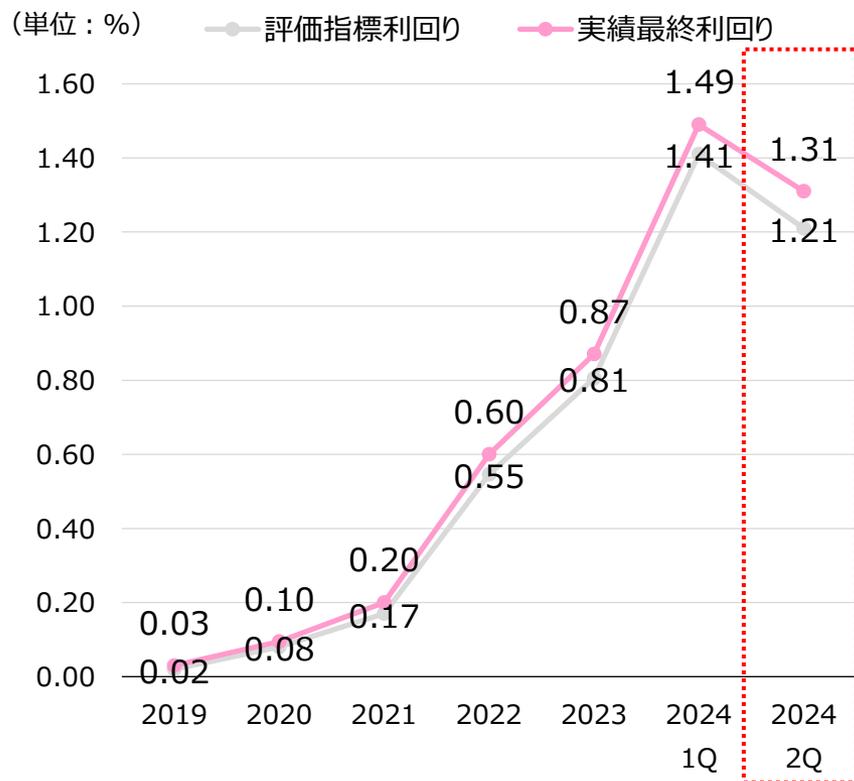
<評価基準>

- ① 年限2年以降で額面残高600億円程度まで構築した年限において、許容乖離幅が600億円から±5%の範囲に収まっていること。
- ② 年限2年以降で額面残高600億円程度まで構築した年限において、国債以外の債券の合計額が国債の額を超える場合は、国債の額からの乖離幅が5%以内に収まっていること。
- ③ 財投機関債及び社債の保有上限額 (額面ベース) が、ポートフォリオ全体のうち5%を超えていないこと。
- ④ 社債の保有額が財投機関債の保有額を超えていないこと。
- ⑤ 財投機関債の新規取得額面が15億円、社債の新規取得額面が20億円を超えていないこと。

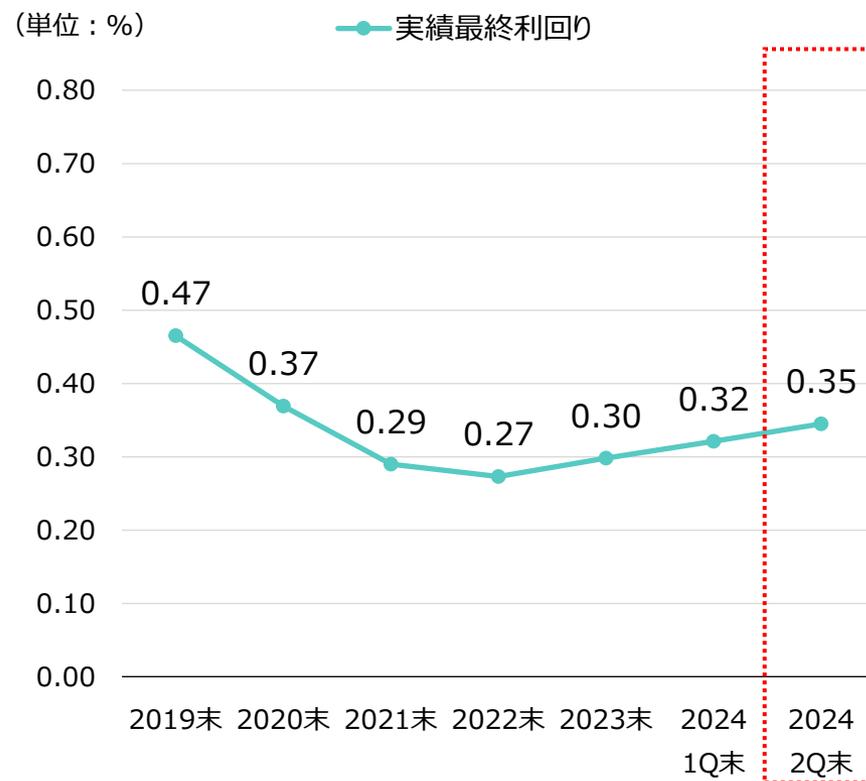
3. 2024年度第2四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

新規取得債券の実績最終利回りは、1.31%となり、評価指標利回り1.21%を上回る結果となった。資産全体の利回りは、第2Q末時点で0.35%となり、2023年度末の利回りを0.05ポイント上回る結果となった。

新規取得債券の利回り



資産全体の利回り



* 「評価指標利回り」とは債券を取得した年限の日々の市場における利付国債の最終利回り（単利）を、年限ごとの債券の取得比率実績により加重平均したもの。

3. 2024年度第2四半期の運用実績 (3) ESG債の取得

2024年度第2QにおいてはESG債を35億円取得。本財団のWebサイトにて投資表明をした債券は下表のとおり。

| 発行体 | 群馬県 | 兵庫県 | 北九州市 |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 債券種別 | 地方債 | 地方債 | 地方債 |
| ESG種別 | グリーンボンド | グリーンボンド | サステナビリティボンド |
| 銘柄名 | 群馬県公募公債 (10年・グリーンボンド) 第2回 | 兵庫県令和6年度第4回公募公債 (グリーンボンド・10年) | 第4回北九州市サステナビリティボンド 10年公募公債(北九州市SDGs未来債) |
| 発行総額 | 100億円 | 100億円 | 79億円 |
| 利率 | 年1.130% | 年1.130% | 年0.933% |
| 期限 | 10年(償還日:34年7月14日) | 10年(償還日:34年7月14日) | 10年(償還日:34年8月23日) |
| 格付 | — | — | — |
| 適合する原則等 | グリーンボンド原則(ICMA、2021) グリーンボンドガイドライン(環境省、2022) | グリーンボンド原則(ICMA、2021) グリーンボンドガイドライン(環境省、2022) | グリーンボンド原則(ICMA、2021) グリーンボンドガイドライン(環境省、2022) ソーシャルボンド原則(ICMA、2023) ソーシャルボンドガイドライン(金融庁、2021) サステナビリティボンド・ガイドライン(ICMA、2021) |
| 資金使途(例) | ①【エネルギー効率】県有施設の省エネ化 ②【生物自然資源及び土地利用に係る環境維持型管理】林道整備 ③【陸上及び水生生物の多様性の保全】河川内緩衝帯の整備等 ④【気候変動への適応】河川改修やため池整備等の水害対策 等 | ① 下水汚泥広域処理場整備事業 ② 県有施設の照明のLED化・空調設備の更新・太陽光発電設備の導入 ③ 河川改修 ④ 森林整備 ⑤ コウノトリの生息環境整備 等 | ① 風力発電関連産業の総合拠点化 ② 風水害・高潮災害の予防 ③ 災害廃棄物処理への対応 ④ 自然環境の保全 ⑤ 環境性能の高い公共施設の新築・改修 ⑥ 子育て・教育環境の整備 等 |

3. 2024年度第2四半期の運用実績 (3) ESG債の取得

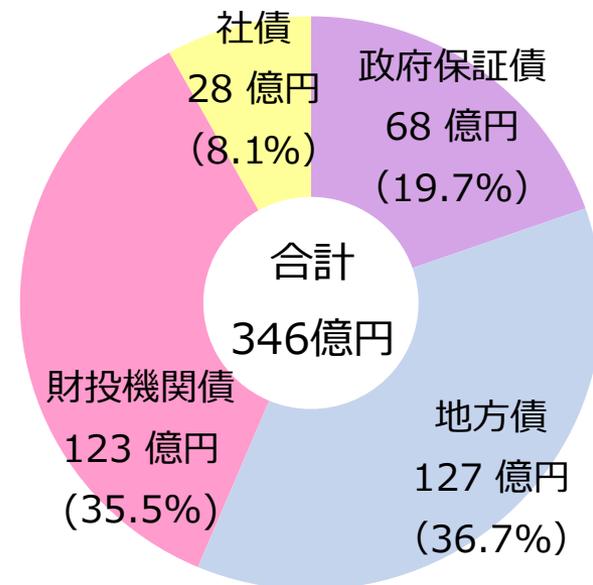
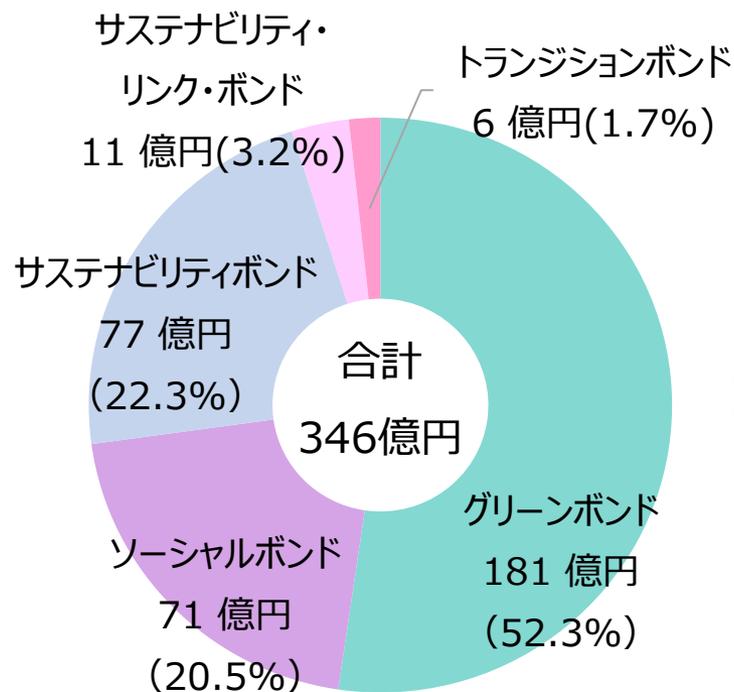
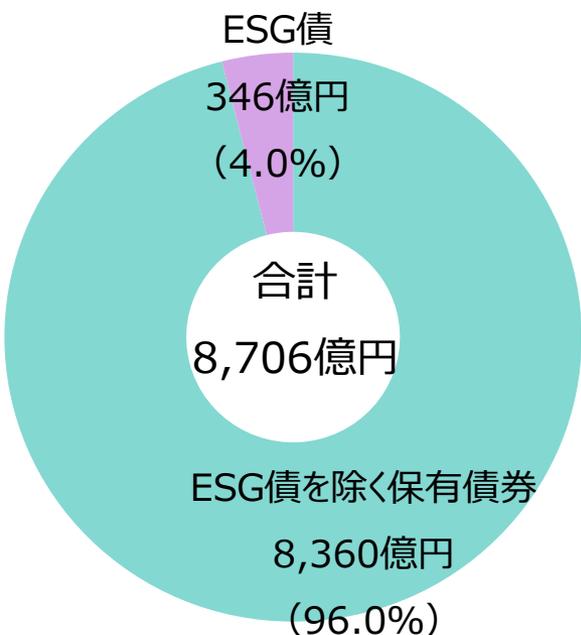
| 発行体 | 埼玉県 | 千葉市 | 滋賀県 | 徳島県 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 債券種別 | 地方債 | 地方債 | 地方債 | 地方債 |
| ESG種別 | サステナビリティボンド | グリーンボンド | サステナビリティ・リンク・ボンド | サステナビリティボンド |
| 銘柄名 | 埼玉県第3回公募公債 (サステナビリティボンド・10年) | 千葉市令和6年度第4回 公募公債 (グリーンボンド) | 滋賀県第3回サステナビリティ・ リンク・ボンド公募公債 | 徳島県令和6年度第1回公募公 債(サステナビリティボンド・10年) |
| 発行総額 | 100億円 | 50億円 | 36億円 | 45億円 |
| 利率 | 年0.933% | 年0.913% | 年0.969% | 年0.969% |
| 期限 | 10年 (償還日: 34年8月30日) | 10年 (償還日: 34年6月20日) | 10年 (償還日: 34年9月29日) | 10年 (償還日: 34年9月29日) |
| 格付 | AAA(JCR) | AA(R&I) | — | AA(R&I) |
| 適合する 原則等 | グリーンボンド原則(ICMA、 2021) グリーンボンドガイドライン (環境省、 2022) ソーシャルボンド原則(ICMA、 2021) ソーシャルボンドガイドライン (金 融庁、2021) サステナビリティボンド・ガイドライン (ICMA、2021) | グリーンボンド原則(ICMA、 2021) グリーンボンドガイドライン (環境省、 2022) ソーシャルボンド原則(ICMA、 2023) ソーシャルボンドガイドライン (金 融庁、2021) サステナビリティボンド・ガイドライン (ICMA、2022) | サステナビリティリンクボンド原則 (ICMA、2020) | グリーンボンド原則(ICMA、 2021) グリーンボンドガイドライン (環境省、 2022) ソーシャルボンド原則(ICMA、 2023) ソーシャルボンドガイドライン (金 融庁、2021) サステナビリティボンド・ガイドライン (ICMA、2021) |
| 資金使途 (例) | ① 河川改修や調節池の整備・ 質的改良 ② 身近な緑の保全 ③ 防災ヘリコプターの更新による 消防防災力の充実 ④ 朝霞児童相談所 (仮称) の 新設 等 | ① 新清掃工場と北清掃工場の 整備 (新規) ② 自転車走行環境の整備 (新 規) ③ 河川の浚渫 (継続) 等 | 【KPI (評価指標)】 温室効果ガス排出量の削減 【SPTs】 県庁にて、2030年度に2014年 度比で温室効果ガス排出量を 50%削減 【主な取組の例】 省エネルギーの推進、再生可能エ ネルギーの利用促進、3Rの推進 及びその他資源の有効利用 等 | ① 県有施設のZEB化省エネ化 ② 森林整備、林道整備 ③ 浸水、高潮対策 (河川改修、 海岸保全施設整備など) ④ ・土砂災害対策 (地すべり防 止対策) など ⑤ 県有施設の老朽化・防災対 策 ⑥ 県立支援学校における施設 整備 等 |

3. 2024年度第2四半期の運用実績 (3) ESG債の取得

2024年度第2Q末時点における保有債券全体に占めるESG債の割合は、4.0%となった。

保有債券全体に占める
ESG債の割合（額面）

ESG債の種別構成（額面）



4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (1) 背景・目的

【背景】

- 近年は、市場金利の上昇やインフレ、自動車の平均使用年数の延伸や再資源化処理費用の上昇等、外部環境の変化が顕在化している。
- 自動車メーカーのリサイクル料金収支は黒字が続いていたが、近年は黒字が縮小しつつあり、さらにインフレ等により、リサイクル料金の単価アップ、即ち自動車ユーザーの負担が増加する傾向にある。
- また、2024年度～2025年度にかけて、現在の15年程度のラダー型ポートフォリオが完成する予定であり、その妥当性、効率性については今一度検証する必要がある。



本件の目的

現在のラダー型運用について、定められた原則の範囲内で運用の更なる効率化を図り、自動車メーカーへの払渡利息額の増加（＝ユーザー負担増加の抑制）を目的とした運用の在り方を検討する。

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (2) 検討の視点

「再資源化預託金等の運用の基本方針」の範囲において、「ラダー型運用の期間延伸」と「新たな商品の組入れ」の視点から検討を行った。

□ 再資源化預託金等の運用の基本方針・抜粋（資金管理業務規程別紙より）

2. 運用の目標

運用収益の獲得に関しては、**元本確保を前提**とし、その上で**一定程度市場の金利動向**を踏まえたものとする。

3. 資産構成 (2) ラダー型運用

満期保有を原則とするラダー型運用とする。ラダー型運用の期間は**自動車の平均使用年数を考慮した期間**とする。

「運用の基本方針」の範囲で、運用効率化施策を検討

□ 検討内容

(1) ラダー型運用の期間延伸（メイン）

- ➡ 現在、15年限までの債券で構築しているラダー型運用の期間を延伸する。
運用期間が長い債券を取得することで、比較的高い利回りの債券を取得することができる。

(2) 新たな運用商品の組入れ

- ➡ 物価上昇による資産の実質的棄損に対応する運用商品を検討する。

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸①(これまでの変遷と提案)

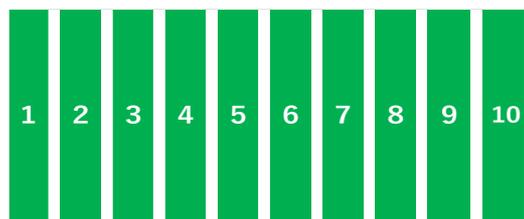
ラダー型ポートフォリオは、償還金額の平準化が確保されている点、特定年限の金利の影響を過度に受けない運用が保たれる点、自動車の使用期間に応じた運用期間を設定できる点などの特徴がある。
法施行から2015年までは運用期間を10年とし、その後2016年から運用期間を15年に延伸したが、更なる運用の効率化を目指し、2025年度からの更なるラダー型運用期間の延伸を提案する。

| | |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ラダー型 ポートフォリオ | ラダー型ポートフォリオについては、毎年度一定額が償還されるため、償還金額の平準化が確保される。また、特定年限の金利変動に影響されることなく、個々の運用期間の金利情勢に見合った運用が保たれる。 |
| 運用期間 | 自動車在使用済みとなった時点での再資源化等に充てることが使途の中心となる資金であるため、自動車の使用期間や、地方債等の市場での流動性に乏しい債券種別についての安定的な調達を考慮した投資期間であることを要する。 |

2004～2015年度

各年限900億円程度の
10年ラダー型運用

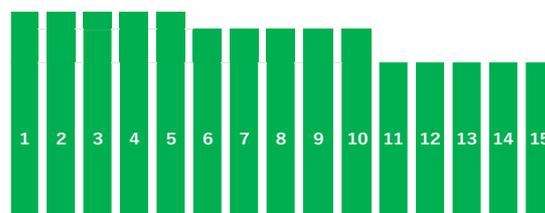
当時の平均使用年数（11～13年）
に鑑みたもの



2016年度～現在

各年限600億円
15年程度のラダー型運用

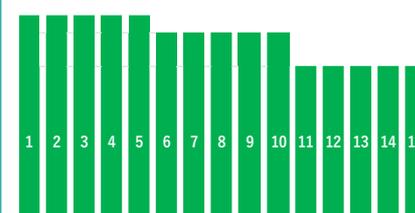
2015年当時の平均使用年数
（14.6年）及び支出規模
（約550億円）に鑑みたもの



2025年度～

下記を考慮して
ラダー型運用期間の延伸を提案

- ✓ 平均使用年数（16.7年）
- ✓ 更なる運用効率化
- ✓ 地方債等の安定取得
- ✓ 各年度のキャッシュフロー



延伸

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸② (メリット・リスクの比較)

ラダー型運用の期間別に、「自動車の平均使用年数との整合」、「収益性の向上」、「単年度キャッシュフロー」の観点からメリットとリスクを整理し、運用期間を20年に延伸することが合理的と判断する。

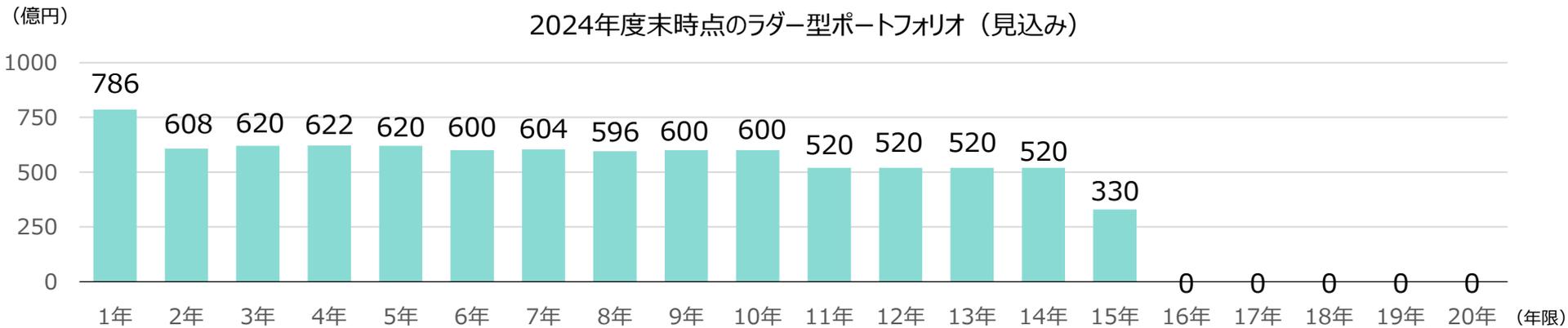
| | ラダーの高さ (資産総額 8,500億円 程度) | 自動車 平均使用年数 との整合 | メリット | | 単年度 キャッシュフロー (収入-支出) ※2050年度時点 |
|-------------|-----------------------------------|-----------------------|----------------|------------------|-----------------------------------------|
| | | | 収益性の向上 | | |
| | | | 延伸による 利回り増加 | 地方債/政保債 の安定取得 | |
| 15年 (現行) | 600億円 | △ | — | △ | 577億円 |
| 17年 | 550億円 | ◎ | △ | △ | 507億円 |
| 20年 | 480億円 | ○ | ○ | ◎ | 437億円 |
| 25年 | 400億円 | △ | ◎ | △ | 357億円 |

【期間リスクについて】

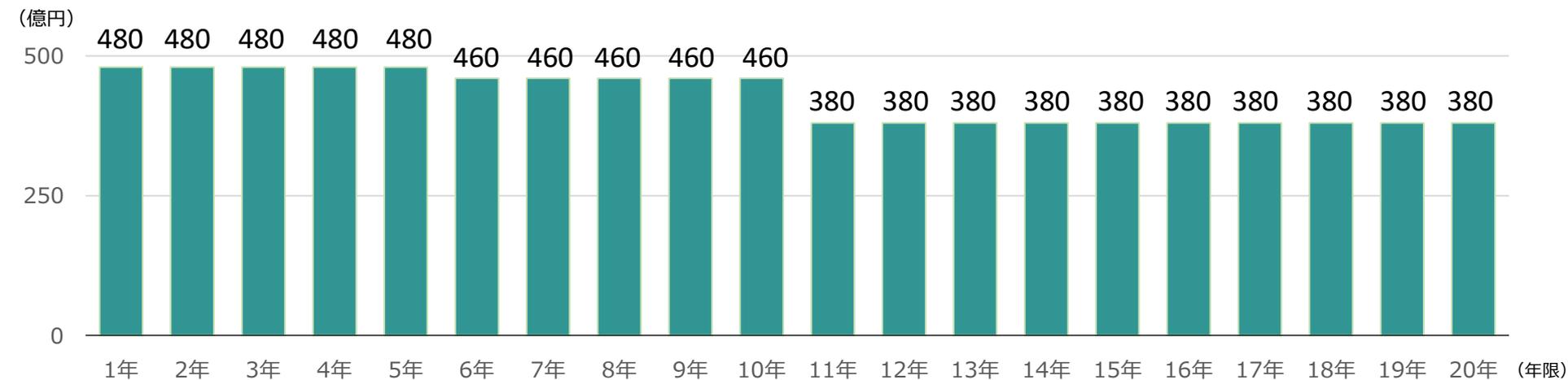
➡本提案において運用期間延伸の対象となる債券種別は、国債・地方債・政府保証債のみであり、期間リスクを考慮する必要は極めて低い。(ただし、地方債については保有割合について随時確認を行い個別発行体への極端な偏りは避ける)

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸③ (完成イメージ)

現在の保有債券額面残高及び今後の収支規模を踏まえ、各年限における積み上げ額を480億円とする。2039年度末に20年のラダー型ポートフォリオが完成する見込み。



運用期間20年のラダー型ポートフォリオ (2039年度末完成見込み)



4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸④ (収益性検証)

収益性の検証 (運用収益の増加)

ラダー型運用の期間を延伸することによる運用益の差は以下の通り。現在の金利水準では、10年間で18億円、20年間では109億円の運用益の差が生じる。低金利下の場合でも20年間で37億円の運用益拡大が期待できる。

➤ 2024年7月29日における金利下で債券を取得しつづけた場合

| 新規取得債券による 運用収益※ | 5年間 | 10年間 | 20年間 |
|-----------------------|-------------|--------------|---------------|
| 【現行】15年程度ラダー (A) | 137億円 | 491億円 | 1,814億円 |
| 【新】20年程度ラダー (B) | 139億円 | 508億円 | 1,924億円 |
| 現行ラダー継続との差 (B)-(A) | +2億円 | +18億円 | +109億円 |

| 国債の利回り | |
|--------|-------|
| 年限 | 単利 |
| 1.4 | 1.494 |
| 1.5 | 1.644 |
| 1.6 | 1.725 |
| 1.7 | 1.805 |
| 1.8 | 1.795 |
| 1.9 | 1.805 |
| 2.0 | 1.840 |

➤ 低金利下 (2020年3月31日) で債券を取得しつづけた場合

| 新規取得債券による 運用収益※ | 5年間 | 10年間 | 20年間 |
|-----------------------|-------------|-------------|--------------|
| 【現行】15年程度ラダー (A) | 20億円 | 71億円 | 261億円 |
| 【新】20年程度ラダー (B) | 20億円 | 76億円 | 299億円 |
| 現行ラダー継続との差 (B)-(A) | +0億円 | +5億円 | +37億円 |

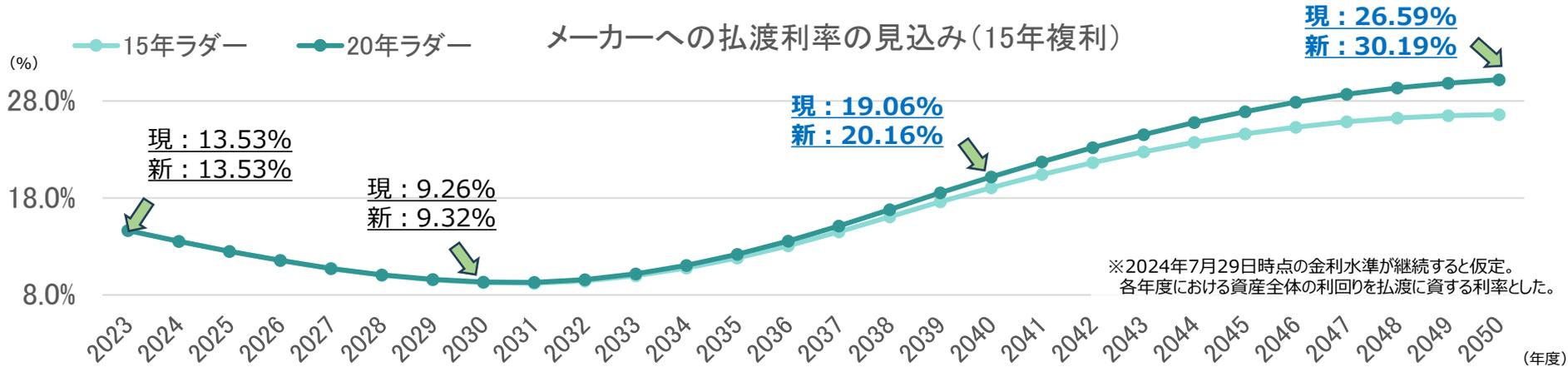
| 国債の利回り | |
|--------|-------|
| 年限 | 単利 |
| 1.4 | 0.202 |
| 1.5 | 0.240 |
| 1.6 | 0.260 |
| 1.7 | 0.286 |
| 1.8 | 0.296 |
| 1.9 | 0.305 |
| 2.0 | 0.310 |

※新規取得する債券は、すべて額面金額で取得する前提。国債の利回りは、9月発行の国債利回りをQuickより参照。

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸⑤ (収益性検証)

収益性の検証 (払渡利率の推移)

ラダー型の運用期間を20年に延伸した場合、メーカーへの払渡利息の利率の見込みは、2040年時点で20.16%、利息は2,016円/台となり(15年複利、元本1万円仮定)、延伸しない場合と比較して、110円/台多く利息を付与することができる。



来年度から15年後の2040年時点では、20年ラダーの場合ではインフレ率1.2%の物価上昇までは運用で対応可能(現行の運用期間だとインフレ率1.1%までの対応可能)。運用期間延伸の効果が払渡利率にも概ね反映される2050年度時点では、インフレ率1.7%の物価上昇まで対応可能な利息を払い渡すことができる。

| インフレ率 | | 1.0% | 1.1% | 1.2% | 1.3% | 1.4% | 1.5% | 1.6% | 1.7% | 1.8% | 1.9% | 2.0% |
|------------------------------------|-----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 同じインフレ率が継続した場合の15年後の物価上昇率(15年間の複利) | | 16.1% | 17.8% | 19.6% | 21.4% | 23.2% | 25.0% | 26.9% | 28.8% | 30.7% | 32.6% | 34.6% |
| 2040年度に払渡を実施ケース | 現ラダーの払渡利率 | ここまで対応可能 | | | | | | | | | | |
| | 新ラダーの払渡利率 | ここまで対応可能 | | | | | | | | | | |
| 2050年度に払渡を実施ケース | 現ラダーの払渡利率 | ここまで対応可能 | | | | | | | | | | |
| | 新ラダーの払渡利率 | ここまで対応可能 | | | | | | | | | | |

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸⑥ (キャッシュフロー検証)

関係各部署にヒアリングの上で今後の収支を試算した結果、2050年度までの各年度において償還金と収入の合計が支出を下回ることにはなく、キャッシュフロー上の問題はない。また、支出が最大限多くなる悲観的なシミュレーションにおいても資金ショートを起こすことはない。

キャッシュフローの検証



悲観シナリオにおけるキャッシュフローの検証



<悲観シナリオの条件>

- 払渡支出：最も払渡額が多かった2019年度の382億円が継続すると想定。
- 輸出返還支出：最も輸出返還額が多かった2023年度の198億円が継続すると想定。

2025年度以降は、20年ラダーを維持していくために、**毎年度の運用計画の中で、積み上げ額を確認する。**

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸⑥ (参考：前提条件)

<前提条件>

【預託収入】

- ・新車時預託台数：「自動車に係る行政需要及び税收シミュレーション調査」令和4年3月（三菱総合研究所、2021年度東京都主税局委託調査）に記載の新車販売台数の想定から算出。
- ・引取時預託：コロナ禍を含む過去5年間の預託台数実績の前年度比の平均（引取時87%）が継続して続くと想定。
- ・預託金額は、直近2023年度の単価10,599円の実績で算出。また、フロン新冷媒への移行を考慮し、2030年にかけてゼロになるとする。

【運用収入（利息収入）】

- ・今後数年間の利息収入は、低金利時に発行された低クーポンの債券を取得するため、減少を見込む。本推計においては、保守的に前年度比95%で一律減少していくと想定。

【払渡】

- ・新車販売台数における払渡台数と輸出返還台数の過去3年間の発生比率から、払渡台数を算出。
2023年度の単価を積して払渡支出を算出。

【輸出返還】

- ・新車販売台数における払渡台数と輸出返還台数の過去3年間の発生比率から、輸出返還台数を算出。
2023年度の単価を積して輸出返還支出を算出。

【出えん等】

- ・担当部署にヒアリングの上で算出。固定的な支出における広報理解活動は現状予算の2.62億円一律。再資源化支援部は実績から1%物価上昇率を織り込む。システム大改造は2043~45年に総額131億円と想定。その他、メーカーが負担してきた人物件費等も加えた金額を用いた。

<各前提条件における資金繰り>

| | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | 2032 | 2033 | 2034 | 2035 | 2036 | 2037 | 2038 | 2039 | 2040 | 2041 | 2042 | 2043 | 2044 | 2045 | 2046 | 2047 | 2048 | 2049 | 2050 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ①預託金 | 484 | 512 | 479 | 473 | 468 | 463 | 459 | 454 | 447 | 441 | 434 | 427 | 420 | 414 | 408 | 402 | 395 | 389 | 384 | 378 | 373 | 367 | 362 | 356 | 351 | 345 | 340 | 334 |
| ②利息収入 | 98 | 98 | 93 | 89 | 84 | 80 | 76 | 72 | 69 | 65 | 62 | 59 | 56 | 53 | 50 | 48 | 46 | 43 | 41 | 39 | 37 | 35 | 33 | 32 | 30 | 29 | 27 | 26 |
| 収入合計 | 582 | 610 | 573 | 562 | 552 | 543 | 535 | 526 | 516 | 506 | 496 | 486 | 476 | 467 | 458 | 450 | 441 | 432 | 425 | 417 | 410 | 402 | 395 | 388 | 381 | 374 | 367 | 360 |
| ③払渡 | 309 | 328 | 360 | 357 | 354 | 351 | 348 | 345 | 340 | 335 | 330 | 325 | 320 | 315 | 311 | 306 | 301 | 296 | 292 | 288 | 284 | 280 | 275 | 271 | 267 | 263 | 259 | 255 |
| ④輸出返還 | 198 | 196 | 185 | 184 | 182 | 181 | 179 | 178 | 175 | 173 | 170 | 168 | 165 | 162 | 160 | 158 | 155 | 153 | 151 | 148 | 146 | 144 | 142 | 140 | 138 | 135 | 133 | 131 |
| ⑤出えん等 | 21 | 29 | 38 | 24 | 19 | 14 | 14 | 14 | 14 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 16 | 16 | 16 | 16 | 59 | 59 | 61 | 17 | 17 | 17 | 17 | 17 |
| 支出合計 | 528 | 553 | 583 | 565 | 555 | 546 | 542 | 537 | 530 | 523 | 515 | 508 | 500 | 493 | 486 | 479 | 472 | 465 | 459 | 453 | 489 | 483 | 479 | 428 | 422 | 416 | 409 | 403 |

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸⑦ (地方債等安定取得)

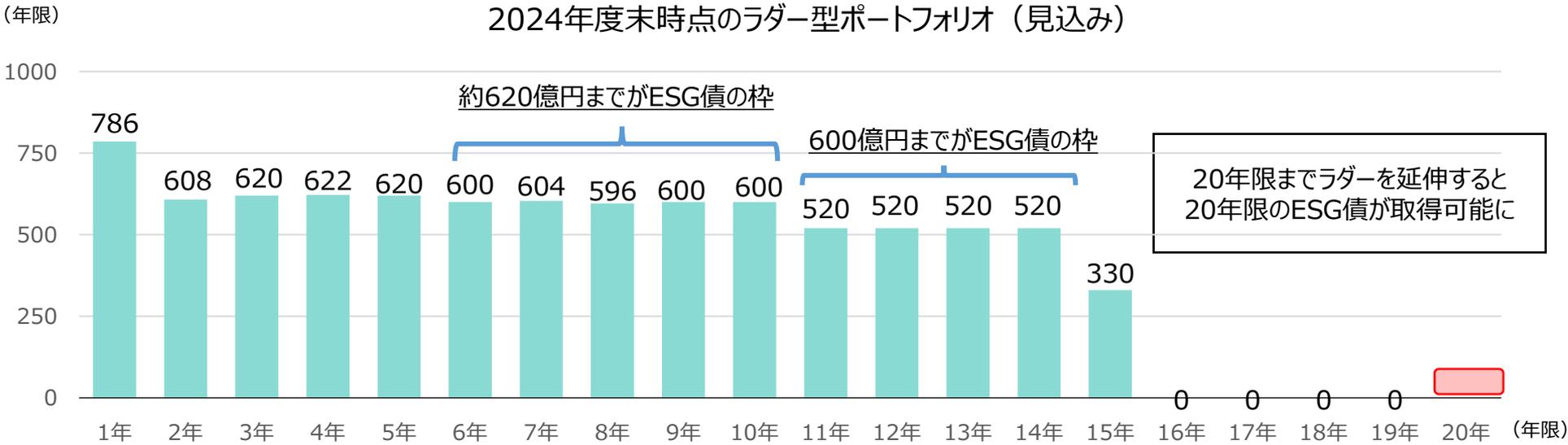
ラダー型運用の期間を延伸することで、20年限新発債の取得が可能となり、安定的に地方債等を取得することができる。なお、2023年度に発行された20年限新発債の地方債は、合計24銘柄、総発行額3,410億円。

| 条件決定日 | 銘柄名 | 年限 | 利率 | 発行額(億円) | 国債SP |
|------------|-----------------------|----|-------|---------|------|
| 2023/12/6 | 名古屋市第28回20年公募公債 | 20 | 1.45 | 100 | 5 |
| 2023/11/9 | 愛知県令和5年度第11回公募公債(20年) | 20 | 1.598 | 250 | 4.5 |
| 2023/11/9 | 第41回川崎市20年公募公債 | 20 | 1.588 | 130 | 3.5 |
| 2023/10/18 | 静岡県第36回20年公募公債 | 20 | 1.61 | 100 | 3.5 |
| 2023/10/4 | 千葉県第33回20年公募公債 | 20 | 1.545 | 200 | 5 |
| 2023/9/8 | 島根県令和5年度第1回公募公債(20年) | 20 | 1.419 | 100 | 5.5 |
| 2023/9/6 | 第24回大阪府公募公債(20年) | 20 | 1.41 | 200 | 5.5 |
| 2023/9/6 | 広島県令和5年度第1回公募公債(20年) | 20 | 1.41 | 100 | 5.5 |
| 2023/9/6 | 奈良県令和5年度第3回公募公債(20年) | 20 | 1.395 | 100 | 4 |
| 2023/8/25 | 千葉市令和5年度第5回公募公債(20年) | 20 | 1.405 | 100 | 4.5 |
| 2023/8/10 | 福岡市2023年度第3回公募公債(20年) | 20 | 1.294 | 100 | 5 |
| 2023/8/3 | 京都府令和5年度第4回公募公債(20年) | 20 | 1.339 | 100 | 5 |
| 2023/7/14 | 神奈川県第52回20年公募公債 | 20 | 1.163 | 200 | 5 |
| 2023/7/14 | 静岡県第35回20年公募公債 | 20 | 1.163 | 100 | 5 |
| 2023/7/14 | 福岡県令和5年度第2回20年公募公債 | 20 | 1.168 | 200 | 5.5 |
| 2023/7/14 | 福井県令和5年度第4回公募公債 | 20 | 1.168 | 50 | 5.5 |
| 2023/6/9 | 札幌市令和5年度第2回公募公債(20年) | 20 | 1.11 | 150 | 8 |
| 2023/6/2 | 兵庫県第45回20年公募公債 | 20 | 1.101 | 200 | 8 |
| 2023/6/2 | 愛知県令和5年度第4回公募公債(20年) | 20 | 1.101 | 200 | 8 |
| 2023/6/2 | 群馬県公募公債(20年)第14回 | 20 | 1.101 | 100 | 8 |
| 2023/6/2 | 千葉市令和5年度第3回公募公債(20年) | 20 | 1.101 | 100 | 8 |
| 2023/5/19 | 福岡県令和5年度第1回20年公募公債 | 20 | 1.093 | 200 | 9 |
| 2023/5/17 | 横浜市第48回20年公募公債 | 20 | 1.097 | 200 | 9 |
| 2023/5/11 | 名古屋市第27回20年公募公債 | 20 | 1.116 | 130 | 9 |

引用元: Quick

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (3) 期間延伸⑧ (ESG債の取得拡大)

ラダー型ポートフォリオの運用期間を延伸することで、20年限のESG債の取得が可能になる。これにより、JARCが目標としている保有債券全体に占めるESG債の割合10%をより早期に実現することができる。



2023年度の20年限のJARC取得対象となりえるESG債

| 銘柄名 | 年限 | 発行額 (億円) | 債券分類 | 分類 |
|--------------------|----|----------|------|------|
| 政府保証第24回住宅金融支援機構債券 | 20 | 100 | 政保債 | グリーン |
| 政府保証第23回住宅金融支援機構債券 | 20 | 200 | 政保債 | グリーン |
| 政府保証第22回住宅金融支援機構債券 | 20 | 200 | 政保債 | グリーン |
| 政府保証第30回民間都市開発債券 | 20 | 100 | 政保債 | グリーン |
| 長野県令和5年度第4回公募公債 | 20 | 30 | 地方債 | グリーン |
| 政府保証第29回民間都市開発債券 | 20 | 50 | 政保債 | グリーン |
| 政府保証第20回住宅金融支援機構債券 | 20 | 200 | 政保債 | グリーン |
| 政府保証第16回住宅金融支援機構債券 | 20 | 200 | 政保債 | グリーン |

20年限のJARC取得対象ESG債は、増加傾向

21年度 : なし
22年度 : 528億円
23年度 : 1,080億円

(Quickより)
2018.4~2024.03.08に発行されたESG債を算出

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案（4）新たな商品の組入れ（運用商品比較）

インフレ環境下でも資産が目減りしないような運用商品や、より効率的な資産運用が可能な運用商品の検討を行う。物価連動国債は法律上取得可能だが、元本を毀損する可能性がある。外債及び仕組債については、法律上取得ができない。預金関係の商品については、債券よりも利回りが低くなることが一般的。

| | 物価連動国債 | 外債 | 仕組債 | | 定期預金 | 仕組預金 |
|-------|-----------------------------|---------------------------------|--------------------------|---------------------|---------------------|------------------------------|
| | | | コーラブル債 | フローター債 | | |
| 取得対象 | ○ | × | × | × | ○ | ○ |
| 元本確保 | × | × | × | × | ○ | ○ |
| 内容 | 全国消費者物価指数の変動により償還金額等が変化する国債 | 発行市場もしくは発行体、発行通貨のいずれかが外国である債券 | 繰り上げ償還する権利が発行体にある債券 | 金利変動によって利息収入が増加する債券 | 期間を指定して金融機関に預け入れる預金 | 仕組債と同様最終的な利益が各種マーケットの動きにより決定 |
| メリット | 物価指数が上昇することによる収入の増加 | 外国は日本と比較し、政策金利が高く、利回りが良い。為替差益あり | 同条件の債券より高い利回りを受け取れる | 金利変動により利息収入が増加 | 通常の預金よりも高い金利 | 利率が変動することによる利息収入の増加 |
| デメリット | 物価上昇率が上がりきらないことによる収入の減少 | 為替リスクあり | ラダーが組みにくく、金利が下がると償還してしまう | 金利変動により利息収入が減少 | 再投資リスクがあり利回りが低い | 利率が変動することによる利息収入の減少 |

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案（4）新たな商品の組入れ(参考：法文の記載内容)

■（ご参考）法律上の運用に関する記述

【第九十七条】資金管理法人は、次の方法によるほか、再資源化預託金等を運用してはならない。

- 一 国債その他主務大臣の指定する有価証券の保有
- 二 銀行その他主務大臣の指定する金融機関への預金
- 三 信託業務を営む金融機関（金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（昭和十八年法律第四十三号）第一条第一項の認可を受けた金融機関をいう。）への金銭信託

【平成十六年経済産業・環境省告示第五号】

使用済自動車の再資源化等に関する法律（平成十四年法律第八十七号）第九十七条第一項第一号及び第二号の規定に基づき、次の有価証券及び金融機関を指定したので、告示する。

一有価証券

イ地方債

□特別の法律により設立された法人の発行する債券(八に掲げる債券に該当するものを除く。)

八特別の法律により銀行、農林中央金庫、商工組合中央金庫又は全国を地区とする信用金庫連合会の発行する債券

二社債

ホ証券取引法（昭和二十三年法律第二十五号）第二条第一項第八号に掲げる約束手形

二金融機関

イ農林中央金庫

□商工組合中央金庫

八全国を地区とする信用金庫連合

【再資源化預託金等の運用の基本方針】

（1）運用対象資産

運用対象資産は、使用済自動車の再資源化等に関する法律（平成14年法律第87号）第97条第1項及び平成16年経済産業・環境省告示第5号に規定するもののうち、以下に掲げるものとする。

①債券

（ア）国債

（イ）地方債

（ウ）特別の法律により設立された法人の発行する債券（政府が保証するもの、又は信用格付業者のいずれかより最上位から二番目以上の格付を付与されたものであること。）

（エ）金融債及び社債（信用格付業者のいずれかより最上位から二番目以上の格付を付与されたものであること。）

②その他

（ア）金融機関への預金（信用格付業者のいずれかより短期債務格付が最上位より二番目以上のものを付与されたものであること。）

（イ）信託会社又は信託業務を行う銀行への金銭信託（信用格付業者のいずれかより長期債務格付が最上位より二番目以上のものを付与されたものであること。）

なお、信用格付業者とは、金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第2条第36項及び第66条の27の規定に基づき、内閣総理大臣の登録を受けた者をいう。

4. 新たな環境下における資金運用の効率化案 (5) 纏め

現行のルール下で、新たな環境に対応する資金運用の効率化に資する方法を検討した結果、ラダー型ポートフォリオの運用期間を現行の15年程度から20年に変更することとし、2025年度の資金運用から開始したい。

□ 検討内容

(1) ラダー型ポートフォリオの運用期間延伸 (メイン)

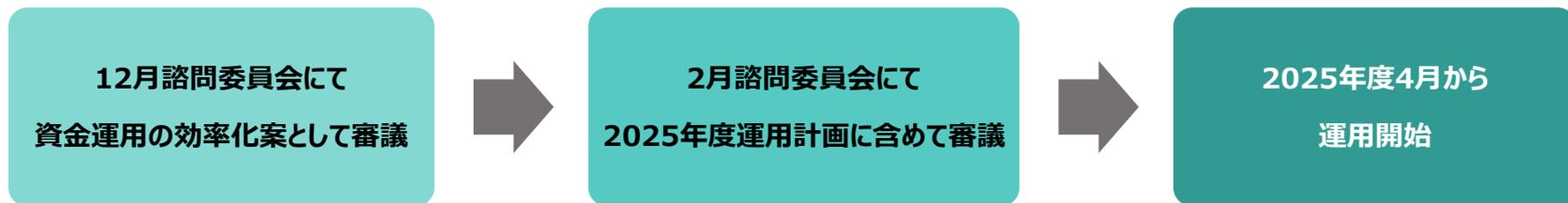
➡ ラダー型ポートフォリオの運用期間を**15年程度から20年に変更したい。**

- ・ **運用期間が長い債券を取得することで、比較的高い利回りの債券を取得することができる。**
- ・ 20年限で発行される新発債を取得することで、より安定的に地方債・政府保証債を確保することができる。
- ・ ESG債の取得額を拡大することができる。

(2) 新たな運用商品の検討

➡ 物価連動国債や仕組債などを検討したが、元本毀損や利回り低下のリスクがあるため、現時点では**新たな運用商品を取得することは見送りたい。**

□ 今後のスケジュール



<MEMO>
